

図書目録

2007

AOI メディカル薬出版

眼科の書籍・雑誌

本体価格のみ表示（税は別）.

【目次】 (眼科の書籍・雑誌)

眼科医療事故の法的責任	3	ドライアイ	25
ヌンチャク型シリコンチューブ	4	視能矯正マニュアル (改訂版)	26
眼内レンズを科学する	5	視能訓練士	
眼科学—疾患とその基礎(改訂版)	6	—スペシャリストへの道—1~4	27
斜視—Q&A 101—	7	アトラス斜視	28
コンタクトレンズ		眼科学辞典	29
フィッティングテクニック	8	眼鏡 (改訂版)	30
外眼部 外来手術マニュアル	9	眼鏡 (改訂版)	30
新 臨床神経眼科学(増補改訂版)	10	水晶体	31
新 糖尿病眼科学一日一課	11		
網膜静脈閉塞症	12	月刊誌 あたらしい眼科	32
ICG蛍光眼底造影マニュアル	13	眼科手術 [日本眼科手術学会誌]	39
コンタクトレンズの正しい使い方	14		
眼科症候群辞典(増補改訂版)	15		
視覚電気生理アトラス	16		
医学におけるわかりやすい			
統計学	17		
眼底レーザー治療図譜	18		
正常眼圧緑内障の診療戦略	19		
実践眼底疾患	20		
眼瞼下垂	21		
小児眼科へのアクセス	22		
眼科診療のための			
分子生物学入門	23		
眼鏡医学 (上・下)	24		

眼科における医療事故紛争への対処を明解に示した眼科医必携の書！

眼科医療事故の法的責任

〔著〕

深谷 翼

(明治大学講師・法学評論家)

診療に携わる者にとって、最も不愉快なのはトラブルに巻き込まれることである。医師は常に患者にとって善かれと思つて診療しているのであるが、予想し得ない結果を招けば紛争となり、時には訴訟にまで発展してしまう。

医師に不注意がある一方で、不条理なことを要求する誤の分からぬ患者もいる。したがって、医師の方でもある程度の法的知識を持って診療に当たらねばならない。眼科専門医認定試験でも社会・予防医学として例年出題されている。近年、医師ばかりでなく医療従事者の量産時代に入っているから、相対的レベル低下をきたし、診療トラブルの増加に拍車がかかっている。そのような理由から、医療のリーダーである医師には監督責任も問われる機会が多くなりつつある。

深谷 翼氏は長らく「医事紛争を専門としてこられた方で、臨床各科における雑誌に医事法関係の論文を多数発表され、これまで『医療関係者のための医療事故と法的責任』、『最新事例に学ぶ医療訴訟対策』、『医療事故の法的基礎知識と医療訴訟最新判例解説集』といった成書を上梓されている。これらの書籍にも眼科関連の症例の記載があるが、かつて私が編集した『眼科保健医療ガイド』でも「医事紛争とその防止」を分担執筆していただいた。

日常診療においてどのように患者に接したら良いか、医事紛争に関わらないためにどうするか、訴訟になってもどうしたら不利にならないかを知るには適切な本であり、眼科医に推薦したい一冊である。

<推薦のことは> 丸尾敏夫 (帝京大学医療技術学部長)

内容目次

第1部 基礎知識編

- I 眼科医療事故訴訟の現状
- II 眼科医療事故と法的責任
- III 眼科医療事故と民事責任 (損害賠償責任)
 - 1. 一般的な不法行為 2. 特殊の不法行為 3. 債務不履行 4. 損害賠償責任 5. 眼科医療事故と解決方法
- IV 眼科医療事故と刑事責任
 - 1. 眼科医療事故と犯罪 2. 眼科医療事故と刑罰

第2部 事例編

- I 問診・検査
 - 1. 抗生物質注射による薬疹事故と医師の問診義務
 - 2. 未熟児網膜症による視力障害と診療の適否
- II 診断
 - 1. 緑内障による失明と医師の責任の有無 2. 多発性後極部網膜色素上皮症と診療過誤の有無 3. 未熟児網膜症を白内障と誤診した医師の責任 4. 流行性角結膜炎患者の角膜穿孔による失明と医師の責任 5. 角膜ヘルペスと診療過誤の有無
- III 説明義務 (インフォームド・コンセント)
 - 1. 球結膜腫瘍手術と合併症に対する説明義務 2. 糖尿病網膜症患者に対する硝子体手術と医師の説明義務 3. 検査結果と眼科医の告知説明義務の有無 4. RK手術 (放射状角膜切開術)の施行と事前告知 (説明)義務

- IV 治療
 - 1. 眼瞼下垂症に対する治療の適否 2. 細菌性 (緑膿菌性) 角膜潰瘍と医師の治療上の過失 3. 右眼打撲症に対する処置の適否 4. 未熟児網膜症による視力障害と治療責任 5. 内因性細菌性眼内炎に対する診療の適否 6. コンタクトレンズ装用による左眼損傷と医師の責任
- V 薬劑
 - 1. 糖尿病患者の角膜ヘルペスとステロイド薬の投与 2. ステロイド剤点眼薬投与とステロイド緑内障等の罹患の有無
- VI 手術
 - 1. 白内障等の手術後失明と医師の責任 2. 嚙嚙症手術後の失明と眼科医の責任 3. 近視矯正のためのレーシック手術の適否 4. 角膜移植手術後の緑内障発症と医師の過失 5. 網膜剥離に対する緊急手術の要否
- VII 術後 (術前) 管理
 - 1. 緑膿菌感染による左眼失明と診療過誤の有無 2. 術後眼内炎の発症と医師の過失
- VIII 転医 (送) ・その他
 - 1. 未熟児網膜症による失明と眼科医の責任 2. 見習看護師の調剤ミスと眼科医の刑事責任

<資料> 日本弁護士連合会報酬等基準

A5判 上製本 総324頁

定価8,400円 (本体8,000円+税400円)

『ダクリオロジー（臨床涙液学）』（1998年刊）後の涙道手術の発展を総括！

ノンチャク型シリコンチューブ

—私のポイント—

涙道手術と眼瞼下垂症手術

【編集】 栗橋克昭（栗橋眼科 院長）

栗橋克昭、成岡純二、大野木淳二、永原 幸、宮久保純子、
宮崎千歌、中川 喬、廣瀬美央、五嶋摩理、今野公士、
忍足和浩、河合憲司、黒田真一郎、寺西千尋、上岡康雄、
田中謙剛、森寺威之、保手浜靖之、新田安紀芳、湯田兼次、
芳賀照行、館 奈保子、原 吉幸、西條正城、岡和田紀昭、
平山健太郎、波多野吟哉、植木麻理

《執筆者》
（掲載順）



つい最近まで、流涙症の治療は一握りの眼科医により細々と行われ、眼科診療のみだし者だった。しかも、涙道狭窄を憎悪させる金属ブジージが普及し、ブジージで治らない場合に涙囊鼻腔吻合術が唯一の治療法として認められていた。チューブ挿入術は有用であるが認知されなかったのは、正しく涙道に挿入することがむずかしく、かつ挿入が困難であったためである。

この状態を一掃させたのが栗橋克昭先生のノンチャク型シリコンチューブ（NST）である。このNSTの導入により流涙症の治療が容易となり、普及したのは、わが国ばかりでなく世界的な業績である。私自身も手製または市販のCrawford型チューブを長年苦勞して使用していた。その頃を思うと隔世の感がある。流涙症のファーストチョイスはNSTとしているので、すでに5,000例余りに使用している。これにより涙囊鼻腔吻合術は流涙症症例の10%以下に減少した。涙小管閉塞が治らない場合はJones Tubeを使用しているが、その比率も低下している。

NSTが発表されてから14年余りがたち、NSTについての「総括の時期」に入っている。このたび本書が刊行されるのは流涙症に悩む患者さん、眼科医にとって朗報である。NSTを理解するには欠かすことのできない本であり、ぜひ座右の書として欲しい。

NSTは侵襲が少なく、高齢者にも外来で容易にできる治療法である。流涙症の初期には特に有効であり、侵襲が大きなDCRやJones Tubeの対象となる症例を減らすことができる。早期診断とNSTによる早期治療が肝要である。

（推薦のことは：札幌医科大学 名誉教授 中川 喬）

■ 目 次 ■

I 総論

1. 涙道手術（含：眼瞼下垂症手術）/ 2. NST—新しい涙道手術のために（含：眼瞼下垂症手術）

II 「解剖」を中心として

1. NST挿入術のための臨床解剖の重要性 / 2. 涙道道の臨床解剖—NST挿入時の注意点 / 3. DSIの適応とNST挿入手技

III 「検査・治療」を中心として

1. NST挿入術に役立つ涙道内視鏡検査 / 2. 涙道内視鏡と鼻内視鏡を使用した涙道診療 / 3. NSTと涙小管閉塞の治療 / 4. 小児の涙道疾患の診断と治療

IV 「手術手技」を中心として

1. NSTをはじめて使用する人のために / 2. 術式によるNST使用法 / 3. NSTの手術手技の実際 / 4. NST手術

- 手技の問題点 / 5. NSTの適応と手技的な注意点 / 7. チューピングの奏効機序と挿入テクニック / 8. 鼻内視鏡下に確実に行うNST留置法と鼻腔内からの抜去法 / 9. DSIの実際 / 10. NSTの特長を生かした挿入法 / 11. NST単独で成功率を上げるために / 12. NST挿入法 / 13. 鼻内視鏡の活用法 / 14. 涙道内視鏡を活用したNST挿入術 / 15. NSTと眼球突出 / 16. 涙囊鼻腔吻合術鼻内法および小児の涙道治療 / 17. 先端湾曲涙洗針ブジージと先端湾曲NST挿入術

V 「症例」を中心として

1. NST施行95例の臨床的検討 / 2. NSTの使用経験—先天性鼻涙管閉塞症の治療 / 3. 涙道内視鏡下NST挿入術を施行した鼻涙管閉塞症例

追補：涙道閉塞疾患と眼瞼下垂症

B5判 上製 総280頁 図表多数収録（カラー写真160点） 定価18,900円（本体18,000円＋税）

「眼内レンズ」に関する最新の情報を網羅したエンサイクロペディア of IOL！

眼内レンズを科学する

【編集】小原喜隆（獨協医科大学 教授）
西 起史（西眼科病院 院長）
松島博之（獨協医科大学 講師）

《執筆者》
（執筆順）

三宅謙作、魚里博、西起史、渡部暁也、永田豊文、北原健二、柴琢也、小原喜隆、松島博之、雑賀司珠也、太田一郎、馬嶋清如、岩本英壽、渋谷昭彦、丸中章永、荒井忠、大鹿哲郎、岡本周子、海谷忠良、根岸一乃、高良由紀子、名和良晃、三戸岡克哉、吉田紳一郎、宮田章、小早川信一郎、黒坂大次郎、ビッセン宮島弘子、谷口重雄、西原仁、比嘉利沙子、市川一夫、大内雅之、杉浦毅、徳田芳浩、常岡寛、林研、西佳代、坪田一男、加藤直子、清水公也、妹尾正、原岳、筑田眞、田中孝男



白内障手術は紀元前から行われていたという。脳から濁った液が流れてたまったのが白内障だと考えられ、硝子体中に落下させる「倒下法」が行われた。近代になって水晶体嚢内摘出術と嚢外摘出術の術式選択に論争が繰り返行われた。現代に比べて手術機器のみならず術式も確立されていなかったが、何よりも手術結果で不足したのが術後の視機能の不完全なことである。眼鏡やコンタクトレンズによる術後視力の矯正手段に問題があった。

やがて眼内レンズ挿入術が登場することとなる。術後の quality of vision の改善は目覚ましいものであった。眼内レンズが高く評価され、現在のような小切開 foldable 眼内レンズ、着色レンズ、非球面レンズ、そして調節性レンズの開発など今後も発展し続けるに違いない。しかし、新しい眼内レンズの開発や臨床成績に注意を傾けるあまり、眼内レンズについての基本的知識を系統的に知る機会が少ないように思われる。眼内レンズのバイブルとなる専門書が刊行されていないことから、本書では基礎から臨床にわたって眼内レンズを基本からしっかりと知るための手伝いが欲しいと思った次第である。

本書では、眼内レンズの歴史、視機能上の役割・利点、デザイン材質と特性、生体適合性、眼内レンズの作製法、滅菌法、各種眼内レンズの特徴、眼内レンズ挿入法、後発白内障、屈折矯正手術用眼内レンズ、多重手術と眼内レンズの観点から眼内レンズを12項目にわたって徹底的に科学的に分析した。各項目の担当者として、各分野で造詣の深い第一線で活躍中の方々に執筆をお願いした。その結果、わかりやすい内容にまとめられているので、日常診療に役立つと確信している。（序文より）

■ 内容目次 ■

- I 眼内レンズの歴史
- II 眼内レンズの視機能上の役割・利点
- III 眼内レンズのデザイン、材質と特性
 - 1. デザイン / 2. 材質 / 3. 光学的特性
 - 4. 物理的特性
- IV 眼内レンズと生体適合性
 - 1. 眼内レンズに対する生体反応と生体適合性
 - 2. 術後炎症反応 / 3. 眼内レンズと水晶体上皮細胞の反応
- V 眼内レンズ作製法
- VI 眼内レンズ滅菌法
- VII 眼内レンズと視機能
 - 1. 収差 / 2. コントラスト感度 / 3. グレア・ハロー / 4. 屈折度誤差 / 5. 偽調節 / 6. 色感覚 / 7. 偏位 / 8. グリスニング / 9. 混濁（着色現象） / 10. 網膜障害（光酸化）
- VIII 各種眼内レンズの特徴
 - 1. Foldable 眼内レンズのいろいろ / 2. 多焦点眼内レンズ / 3. Toric 眼内レンズ / 4. 調節性眼内レンズ / 5. 非球面眼内レンズ / 6. 極小切開眼内レンズ / 7. 無虹彩用眼内レンズ / 8. 縫着眼内レンズ / 9. 水晶体嚢拡張リング
- IX 眼内レンズと挿入法
- X 眼内レンズと後発白内障
 - 1. 後発白内障の解析法（PCO） / 2. 最近の眼内レンズと後発白内障 / 3. 後発白内障の物理的・化学的抑制方法
- XI 屈折手術用眼内レンズ
 - 1. 前房レンズ / 2. 後房レンズ
- XII 多重手術と眼内レンズ
 - 1. 角膜移植同時手術と IOL の選択 / 2. 緑内障手術と眼内レンズ / 3. 網膜硝子体手術と眼内レンズ / 4. どうよう膜炎と眼内レンズ

B5判 総140頁 写真・図・表 多数収録

定価 9,450 円（本体 9,000 円＋税）

眼 科 学

■ 疾患とその基礎 ■

<改訂版>

【監修】 眞鍋禮三（大阪大学名誉教授）

最近の科学の進歩は実にめざましい。「十年一昔」などという言葉はすでに死語となり、「五年一昔」とか「三年一昔」と言われるほどに進歩の速度を早めている。このような高速進歩を可能にしたのは「ブラックボックスの概念」ではないかと考えられる。すなわち、先人が苦労して獲得した原理・原則をブラックボックスの中に閉じこめ、「何故そうなったのか」についてももう一度苦労して理解し直すのではなく、「どうすればどうなるのか」のみを追求することが、進歩に取り残されない最良の方法であるとされているからである。最近の医学書にもこの考えが取り入れられ、「こうすればこうなる」といういわゆる「how-toもの」が多くなり、「何故先人がそう考えたのか」について書くと、進歩についていけなくなるのではないかという不安さえ与えかねない風潮になっている。

本書では疾患の診断と治療について「現時点における」と限定した上で、最も正しいと思われる方法を述べるとともに、その疾患についての基礎知識をもとに「何故そう診断したのか」や「何故そのような治療法をとったのか」について解説している。

本書が、読者諸氏の日常診療において、ブラックボックス方式の丸暗記ではない、考える診療が実現されるなら望外の幸せである。
(序文より)

■ 内容目次 ■

- | | |
|----------------|-------------------|
| I. 総論 | XI. 視路、瞳孔、眼球運動 |
| II. 眼科診療室にて | XII. 眼 窩 |
| III. 眼 瞼 | XIII. 緑内障 |
| IV. 涙 器（涙腺、涙道） | XIV. 斜視、弱視 |
| V. 結 膜 | XV. 屈折・調節異常 |
| VI. 角 膜 | XVI. 光覚・色覚の異常 |
| VII. 強 膜 | XVII. 全身疾患と眼 |
| VIII. ぶどう膜 | XVIII. 眼のプライマリーケア |
| IX. 水晶体 | XIX. 眼治療学総論 |
| X. 網膜硝子体 | XX. 付 録 |

A.眼科略語集/B.眼科関連法律(法令)

C.リハビリテーション/D.主な眼科雑誌の紹介

B5判 2色刷り 総674頁 カラー写真・図・表 多数収録 定価23,100（本体22,000円＋税5%）

斜視のお子さまをお持ちの保護者の方々へ！ 小児眼科の第一人者がお悩みを解決します。

斜視 Q&A 101

【著】 David Taylor, Jane Walker, Christine Timms

【訳】 瀧畑能子（川崎医療福祉大学感覚矯正学科 教授）

◆この本は、斜視のお子さまをお持ちの保護者の方々から寄せられた多くの質問をまとめたものです。不思議なことに斜視のお子さまの保護者は、もっと重症な眼疾患を持っておられる方々よりも深刻に悩んでおられるように思えることがあります。わたしたちはその悩みをひとつひとつ解決し、斜視についての理解の手助けができれば、と考えています。

この本では、保護者の方々からの斜視についての質問にわかりやすく答えるようにしました。中には、答えるのが、大変難しい質問もありました。それは、斜視について間違った知識が信じ込まれているからであると感じ、このような斜視に対する間違った情報をなくしていかなければならないと痛感しました。

（著者序文より）

◆ロンドンの小児病院でTaylor先生に小児眼科を教えていただいていた時に、私はとても感動したことがありました。Taylor先生の外来では、保護者の方々がお子さまの眼疾患について熱心に勉強し、正しく理解し、小児眼科医やナース、視能訓練士と一緒に治療していくのです。

この本は、保護者の方々のための斜視のガイドブックをTaylor先生らが書かれたものです。保護者の方々もしっかり勉強し、疑問点は納得できるまで質問していました。

101のQ & Aの中には日本ではありえないようなものもありましたので、少し日本風にアレンジし、イラストも加えました。この本が斜視のお子さまをお持ちの方々にとって少しでも役立てば、と願っております。

（訳者序文より）

＜本書の内容＞

- A. 斜視についての一般的な質問（Q & A 1～22）
- B. 斜視の影響（Q & A 23～30）
- C. 診断と分類（Q & A 31～35）
- D. 手術以外の治療（Q & A 36～71）
- E. 斜視手術（Q & A 72～101）
- F. 眼振（眼球振盪）についての質問

B5判 総36頁 カラーイラスト多数収載

定価 1,050円（本体1,000円＋税50円）

この本があれば、明日からのコンタクトレンズ診療は安心して出来る！

コンタクトレンズ フィッティングテクニック

【著】小玉裕司（小玉眼科医院 院長）

このたび、メディカル発出版から「コンタクトレンズ フィッティングテクニック」が発刊された。この本は小玉裕司先生の単著によるものであり、その内容は膨大かつ繊細である。近年発刊される著書の多くが編集者と多数の著者による合作であるとは好対照の本である。単著の完成には著者の膨大な時間と努力を必要とするが、一方で、科学的な内容のみならず著者の診療に対する見かた考えかたが直に伝わってくるので面白い。

さて、この本を読み通して見て感じることは、きわめて優れたコンタクトレンズ実用書であるということである。コンタクトレンズフィッティングテクニックについての実際の事柄はもちろんのこと、苦情処理から角膜障害にいたる対処法まで、微にいり細にいり記載されている。この本があれば、明日からのコンタクトレンズ診療は安心して出来る！ そのように感じる本である。コンタクトレンズ診療を始めたいと思う若手医師にはもちろんのこと、コンタクトレンズ専門家にも必携の書であると確信する。

（推薦のことはば：京都府立医科大学 眼科 教授 木下 茂）

■ 目 次 ■

1. コンタクトレンズの処方に必要な角膜の知識
2. コンタクトレンズの処方に必要な涙液の知識
3. コンタクトレンズの処方に必要な屈折・矯正の知識
4. コンタクトレンズの処方に必要なその他の知識
5. コンタクトレンズの選択
6. ハードコンタクトレンズ(HCL)の処方[症例 1]
7. フルオレセインパターンの判定方法
8. ハードコンタクトレンズ(HCL)の処方[症例 2]
9. レンズデザインと角膜形状
10. ハードコンタクトレンズ(HCL)の処方[症例 2(続)]
11. フルオレセインパターンの判定法における注意点
12. ベベル・エッジのチェック< I >
13. ベベル・エッジのチェック< II >
14. ベベル・エッジのチェック< III >
15. ベベル・エッジのチェック< IV >
16. ベベル・エッジのチェック< V >
17. ソフトコンタクトレンズ(SCL)の処方
18. ソフトコンタクトレンズ(SCL)の種類
19. ソフトコンタクトレンズ(SCL)の選択
20. コンタクトレンズと定期検査
21. コンタクトレンズと眼障害
22. ハードコンタクトレンズの修正とは？
23. 修正による HCL の苦情処理—くもり(1)
24. 修正による HCL の苦情処理—くもり(2)
25. 修正による HCL の苦情処理—充血
26. 修正による HCL の苦情処理—異物感(1)
27. 修正による HCL の苦情処理—異物感(2)
28. 修正による HCL の苦情処理—視力
29. SCL の苦情処理—くもり・かすみ・視力低下
30. SCL の苦情処理—異物感・眼痛・流涙・充血
31. 乱視に対するコンタクトレンズの処方
32. ドライアイ
33. ラウンド角膜
34. カラーコンタクトレンズ
35. 治療用ソフトコンタクトレンズの処方
36. 無水晶体眼に対するコンタクトレンズの処方
37. 乳幼児・小児に対するコンタクトレンズの処方
38. 光彩付きコンタクトレンズ・義眼コンタクトレンズの処方
39. ハードタイプ・バイフォーカルコンタクトレンズの処方
40. ソフトタイプ・バイフォーカルコンタクトレンズの処方
41. HCL のカスタムメイドの処方
42. コンタクトレンズと点眼薬
43. コンタクトレンズとケア用品
- ワンポイント(15 項目)

B5 判 総 152 頁 カラー写真多数収載

定価 8,400 円（本体 8,000 円 + 税 400 円）

外眼部 外来手術マニュアル

【編集】稲富 誠（昭和大学 教授）・田邊吉彦（昭和大学 客員教授）

近年、眼科手術の発展は目を眩るものがあり、多くの手術書が出版され、その技術も日進月歩である。つい10年ほど前には不可能であった疾患も、今では手術できるようになったとよくいわれる。これは大変喜ばしいことであるが、その多くはeyeballの領域であり、eye adnexaでは未だ目覚ましいというにはほど遠い。この原因はいろいろあろうが、eye adnexaはやはり眼科領域では傍流であり、皆の関心が今ひとつであることが第一にあげられる。

しかし、患者にとって自分に行われる手術は、何であれ決して傍流の手術ではない。さらに外来で行うeye adnexaの症例は比較的遭遇することの多い疾患である。そこで手術にあたって、教科書を読んだり、先輩に尋ねたりするのであるが、eyeball surgeryの場合と異なり、教科書を読んでも理解しにくい所が少なくなく、また先輩にそれらを尋ねても、明快な答えが返ってこないことがしばしばである。これは一般に、eye adnexaの手術では型どおりの手術が少なく、疾患の成因や手術操作の目的および意味に対する理解が少ないことが第一の原因と考えられる。

今回、このような背景から『外眼部外来手術マニュアル』の刊行を企画した。本書では、対象疾患を日常の外来でみられるポピュラーな疾患で、外来手術の範疇に入るものに限った。

この教科書にご執筆頂いた先生方は、いずれもその方面でのエキスパートの方ばかりである。この教科書を作るにあたって、我々はエキスパートの先生方に、本文の枚数にはある程度目安をつけるものの、写真やイラストには制限を設けず、先生方が必要と思われるだけつけて頂くようお願いした。これはeye adnexaの手術は文章だけでは理解しにくく、写真やイラストによるほうがずっと理解しやすいと考えたからである。また、文章も読みやすいもの、理解しやすいものにとお願いした。

Eye adnexaの手術をこれから初めて行おうとされる若い先生方や、あるいは実際に手術をして困った症例に遭遇された先生は本書をお読みになれば、その直接の解答がみつからなくても、必ずやそのヒントは見つかるものと確信するにたいである。

(序文より)

■ 内容目次 ■ (かっこ内は執筆者)

I 眼瞼の疾患

1. 霰粒腫（三戸秀哲 井出眼科新庄分院）
2. 麦粒腫（三戸秀哲）
3. 眼瞼下垂（久保田伸枝 帝京大学）
4. 眼瞼内反（根本裕次 帝京大学）
5. 眼瞼外反—老人性（八子恵子 福島医科大学）
6. 兔眼（八子恵子）
7. 睫毛乱生（柿崎裕彦 愛知医科大学）
8. 眼瞼皮膚弛緩症（井出 醇・山崎太三・辻本淳子 井出眼科病院）
9. 眼瞼良性腫瘍（小島学允 さいたま赤十字病院）

II 結膜・眼球の疾患

1. 翼状片（江口甲一郎 江口眼科病院）
2. 眼窩脂肪脱出（金子博行 帝京大学）

III 涙器の疾患

1. 涙道ブジー（先天性狭窄）（吉井 大 国立身体障害者リハビリテーションセンター）
2. 涙小管炎（吉井 大）
3. 涙点閉鎖（吉井 大）

あれから3年、さらにUp to dateな内容を盛り込み、さらに神経眼科の最先端へ

Clinical Neuro-Ophthalmology

新 臨床神経眼科学

＜増補改訂版＞

【編集】三村 治（兵庫医科大学 教授）

＜執筆者＞

池田誠宏、池田尚弘、内海隆生、片野拓哉、神野早苗、木村亜紀子、木村直樹、栗本拓治、米栖昭博、鈴木温、田野良太郎、寺田本裕子、内藤哲行、西崎順也、西村雅史、秦真実、平島育美、藤井雅彦、古河雅也、平島育美、藤井雅彦、古河雅也、古河雅也、保科幸次、三村治、山縣祥隆、山田元子（以上、兵庫医科大学） 安積淳、石橋一樹、井上正則、金森章泰、楠原仙太郎、石橋和子、関谷善文、中村誠、根本昭、前田秀高（以上、神戸大学） 絵野亜矢子（大阪バイオサイエンス研究所） 岩崎嘉秀（芦屋市立病院） 野村耕治、山田裕子（以上、兵庫県立こども病院） 三反田智博（宝塚市立病院） 波田順次（神鋼病院） 山本恭三（京都府立医科大学）

本書が上梓されてから3年が経過しましたが、その間にもすでに画像診断法や遺伝子診断などいくつかの分野で新しい知見が得られ、編者としては最新の情報を伝えきれないことにもどかしさを感じていました。本書は当初から、最新の神経眼科学の知識を読者にお伝えすることを至上命題としていましたので、今回版を重ねるのを機会に、部分的ではありますが改訂を行うことになりました。

今回の改訂では、初版発行後ご指摘いただいた誤りや誤植の訂正以外に、「外転神経麻痺」の項をすべて書き直すなど、全部で32項目に関して全面的あるいは部分的に加筆修正を行っています。図も不鮮明なものは鮮明なものに加え、文献も可能であれば最新のものを引用しています。また、最後の「これからの神経眼科」の章には、とくに進歩の著しい画像診断法として「Fiber tracking」の項を追加しています。

この増補改訂版が神経眼科学の標準的な成書となり、読者の診療と研究に役立てれば編者の大いなる幸いです。

（序文より）

■ 内容目次 ■

- I 神経眼科における診察法・検査法
- II 視路の異常
 - 1. 視神経障害／2. 視交叉およびその近傍の病変／3. 上位視路の病変
- III 眼球運動の異常
 - 1. 核上性眼球運動障害／2. 核および核下性眼球運動障害／3. 神経筋接合部障害
 - 4. 外眼筋および周囲組織の異常／5. 眼振および異常眼球運動
- IV 瞳孔・調節・輻湊機能の異常
 - 1. 瞳孔・調節機能の異常／2. 輻湊・散開機能の異常
- V 眼窩・眼瞼の異常
 - 1. 眼窩の異常／2. 眼瞼の異常
- VI その他
 - 1. 心因性反応／2. 全身疾患と神経眼科／3. 網膜疾患の接点／4. 緑内障との接点
 - 5. 各種検査
- VII これからの神経眼科
 - 1. 視神経移植と再生／2. 遺伝子診断と治療／3. 実験的視神経炎
 - 4. 視神経症の新しい治療法の試み／5. 膝状体外視覚系／6. 固視微動の解析
 - 7. Functional MRI／8. Fiber tracking

A4変型 総312頁 写真・図・表 多数収録

定価21,000円（本体20,000円+税）

新 糖尿病眼科学 一日一課

【編集】堀 貞夫（東京女子医科大学 教授）・山下英俊（山形大学 教授）・加藤 聡（東京大学 講師）

《執筆》 岩本安彦，岩崎直子，船津英陽（以上，東京女子医科大学） 山下英俊，佐藤武雄，佐藤浩章（以上，山形大学）
（執筆順） 山本禎子（東邦大学） 加藤 聡（東京大学） 山本修一（千葉大学） 早川和久（琉球大学） 堀 貞夫（東京女子医科大学）
川崎 良，芳賀真理江（以上，山形大学） 北野滋彦（東京女子医科大学） 福嶋はるみ（東京大学） 須藤史子
（埼玉靖生会業態病院） 富田剛司（東京大学） 井上賢治（井上眼科病院） 大平明彦（若葉眼科病院） 善本三和子（東
京通信病院） 小松美智子，林 佳枝，鈴木早苗，木所篤子，佐藤あゆみ（以上，東京女子医科大学）

本書の初版が出版されて7年余がたった。この間に糖尿病自体の治療や合併症の診断と治療が大きく変遷し進歩した。

ことに糖尿病網膜症と糖尿病黄斑浮腫の発症と進展に関与するサイトカインの研究が進展し，病態の解明が大きく前進した。これを踏まえて，発症と進展に関与する薬物療法の可能性を追求する臨床試験が進んでいる。糖尿病網膜症に関しては，以前のように手を着けられないまでに進展した増殖糖尿病網膜症の症例をみるのが少なくなったように感じる。一方で，視機能，ことに視力低下に直接つながる糖尿病黄斑浮腫の治療は，現時点で最も論議が活発な病態となっている。硝子体手術やステロイド薬の投与の適応と効果について，初版が出版された頃に比べると大きく見解が変化している。そして，糖尿病黄斑浮腫の診断に大きな効果を発揮する画像診断装置が普及した。

改めて，本書が糖尿病眼合併症による失明防止の一助になることを切望する。 (序文より)

■ 内容目次 ■

I 糖尿病の病態と疫学

1. 糖尿病の代謝異常/2. 糖尿病の遺伝相談/3. 糖尿病眼合併症の疫学/4. 糖尿病合併症（血管病変）の分子メカニズム

II 糖尿病網膜症の病態と診断

1. 眼底検査法/2. 単純網膜症/3. 増殖前網膜症/4. 増殖網膜症/5. 糖尿病網膜症の硝子体所見/6. 糖尿病網膜症の進展速度/7. 糖尿病網膜症の進展に関与する因子

III 網膜症の補助診断法

1. FAG 施行上の注意点/2. ICG 蛍光眼底造影/3. 糖尿病網膜の電気生理検査/4. 糖尿病における網膜循環/5. 糖尿病網膜症における超音波画像診断/6. 糖尿病眼におけるパリア機能測定/7. OCT 検査法/8. その他の画像解析 (RTA, SLO)

IV 糖尿病網膜症の病期分類

1. Scott 分類/2. 福田分類/3. Davis 分類/4. ETDRS 分類

V 糖尿病網膜症の治療

1. 網膜症の治療方針/2. 糖尿病網膜症と血糖コントロール/3. 糖尿病網膜症の薬物治療の可能性/4. 選択的光凝固法/5. 汎網膜光凝固 (PRP) /6. 硝子体手術の概念 - 対象，ゴール/7. 糖尿病網膜症に対する硝子体手術/8. 硝子体手術機器の解説

VI 糖尿病黄斑症

1. 黄斑症の疫学/2. 病理と病態/3. 薬物療法/4. 光凝固療法/5. 硝子体手術/6. その他の治療法/7. 黄斑沈着

VII 糖尿病と白内障

1. 糖尿病白内障/2. 白内障手術適応と血糖コントロール/3. 白内障手術と糖尿病網膜症

VIII その他の糖尿病眼合併症

1. 血管新生緑内障の病態/2. 血管新生緑内障の治療/3. 糖尿病性角膜炎/4. 糖尿病虹彩症と糖尿病虹彩炎/5. 糖尿病による視神経障害/6. 眼球運動障害/7. 屈折・調節異常

IX 網膜症と関連疾患

1. 網膜静脈閉塞症と糖尿病/2. 腎症と網膜症/3. 神経障害/4. 糖尿病合併妊婦の網膜症管理/5. 高血圧/6. 1型糖尿病

X 糖尿病網膜症による中途失明

1. 中途視覚障害の原因としての糖尿病網膜症/2. 網膜症患者の心理・社会的問題とソーシャルワーク支援/3. 中途視覚障害者のリハビリテーション/4. 糖尿病網膜症に対するロービジョン外来/5. 社会資源・社会復帰施設一覧

XI 糖尿病眼科における看護

1. 外来における看護/2. 病棟における看護/3. 手術室における看護

B5型 総224頁 写真・図・表 多数収載

定価9,660円（本体9,200円＋税460円）

網膜静脈閉塞症

【著者】戸張 幾生（東邦大学 名誉教授）

眼科疾患には角膜疾患、白内障、緑内障、黄斑疾患などの眼科特有の疾患がありますが、全身疾患との関連が深く、かつ症例の多い疾患に糖尿病網膜症と網膜静脈閉塞症があります。糖尿病網膜症の著書は多数刊行されていますが、網膜静脈閉塞症については単独の著書は見あたりません。

日常診療において治療する機会の多い網膜静脈閉塞症には、中心静脈閉塞症、分枝静脈閉塞症、半側中心静脈閉塞症があります。その発症原因には、全身因子としての多くの背景疾患や、局所因子としての網膜組織の多彩な病変があります。同じような症例でも、さまざまな経過をたどります。

著者は過去35年間に約4,000例をこえる静脈閉塞症の治療を行ってきました。治療の折にふれ文献を調べているうちに、網膜静脈閉塞症には実に多くの事柄が関連していることを学んできました。本書を執筆した動機は、一人の眼科医が4,000例以上の網膜静脈閉塞症を経験し、3,000例をこえる光凝固治療を施行する機会はないのではないかと思います。自験例を含めて網膜静脈閉塞症に随伴する多彩な事柄をまとめて記載し、網膜静脈閉塞症を理解していただくことは、これから学ぶ諸先生のお役に立つのではないかと考えたためです。

(序文より)

■ 内容目次 ■

I. 疫学・統計

1. 疫学／2. 統計

II. 発生機序と病理

1. CRVOの発生機序と病理／2. BRVOの発生機序と病理／3. BRVOと動静脈交叉

III. 分類

1. CRVOの分類／2. BRVOの分類／3. Hemi-CRVO（半側網膜中心静脈閉塞症）

IV. 自然経過

1. CRVOの自然経過／2. BRVOの自然経過

V. 臨床所見

1. 眼血流動態／2. 血液／3. 軟性白斑／4. BRVOと大きな血管瘤・網膜細動脈瘤／5. 硝子体／6. BRVOと網膜裂孔／7. BRVOと滲出性網膜剝離／8. 緑内障

VI. 合併症

1. CRVOと毛様網膜動脈閉塞／2. 頸動脈海綿静脈洞瘻（CCF）／3. CRVOとoptociliary vein／4. 合併症

VII. 検査

1. BRVOと屈折／2. CRVOと瞳孔／3. 視野／4. ERG・多局所網膜電図・EOG・パターソンVECPとBRVO／5. CRVOとICG（インドシアニングリーン蛍光眼底造影）／6. 網膜厚解析装置（RTA）、光干渉断層計（OCT）／7. BRVOと血液眼槽

VIII. 治療

1. 薬物治療／2. 高気圧酸素療法・星状神経節ブロック／3. 光凝固治療／4. 硝子体手術

A4変型 総124頁 写真(カラー・モノクロ)203点 定価(本体17,000円+税)

ICG 蛍光眼底造影マニュアル

【編集】 三木徳彦 (大阪市立大学 名誉教授) 林 一彦 (はやし眼科 院長)

インドシアニンググリーン蛍光眼底造影法は、この数年来、国の内外を問わず眼科関連の学会や学術誌を賑わしており、今や脈絡膜造影法として眼底疾患の診断に関して不動の地位を築くまでになっている。

本法によりもたらされた新知見は膨大で、それによる恩恵ははかりしれない。診断方法の急速な発展の陰には、ビデオ ICG 蛍光造影装置、SLO、デジタル高解像度赤外蛍光眼底造影など、最新のコンピュータ技術を取り入れた造影器機の進歩も見逃せない。

このような現状にありながら、インドシアニンググリーン蛍光眼底造影法の原理から臨床まで一貫して、系統的に懇切丁寧に書かれた解説書がなく、撮影が煩雑で、読影がむずかしいといった誤った認識が、普遍的な検査法としての定着を妨げている。

そこで、これから ICG 蛍光造影をはじめの人を対象にして、臨床の場ですぐに役に立つ実践的な知識を集約したのが本書である。実践的であることを主目的とし、撮影方法のイロハから、主な疾患の造影所見までを見開きで簡潔にまとめた。とくに疾患の部分は、ICG 蛍光所見を前面に配置して所見がすぐに比較できるようにした。また、読影の参考になるように、「コメント」の項を設けて、ICG 所見に関する著者の考えを記載した。

(序文より)

■ 内容目次 ■

はじめに—どうして、この本を出版することに
なったか？

■ ICG 蛍光造影が歩んできた道

I. ICG 蛍光眼底造影を理解するには

1. 造影剤 (ICG 色素) の特徴 / 2. 種々の ICG 蛍光眼底造影装置をいかに使いわけるか—撮影装置購入の注意点と撮影方法の実際— / 3. コンピュータの応用

II. ICG 蛍光造影の読影に必要な基礎的知識

1. 眼底の構造と網脈絡膜循環 / 2. ICG 蛍光造影 (IA) とフルオレセイン蛍光造影 (FA) とどこが

違うか？

III. ICG 蛍光眼底造影所見をどう読むか

1. 正常眼の網脈絡膜造影所見—各種眼底カメラの正常所見と比較— / 2. 虹彩および結膜血管

IV. ICG 蛍光眼底造影の臨床

1. 実際の応用法と主な異常所見 / 2. 脈絡膜新生血管 / 3. 漿液性網膜剥離 / 4. 眼球外傷に伴う脈絡膜症 / 5. 脈絡膜腫瘍 / 6. 網脈絡膜変性疾患 / 7. 網膜血管病

B5判 総200頁 図表・写真 372点

定価 13,650円 (本体 13,000円 + 税)

インフォームドコンセントに最適！

コンタクトレンズの正しい使い方

—効果的に／安全に／快適に—

【著】植田喜一（ウエダ眼科 院長）

現在、国内におけるコンタクトユーザーは約1,300万人をこえており、これは国民の10人に1人がコンタクトレンズを使用しているということになります。わが国ではじめてコンタクトレンズが使用されるようになってから約50年が過ぎました。この間に各メーカーの研究、開発、技術の向上により、レンズ材質、レンズデザインの改良が進み、現在ではじつに豊富な種類のレンズが発売されています。しかし、どんなにすぐれたコンタクトレンズでも、目にとっては異物です。適切な処方、正しい使用、定期検査などが行われなければトラブルが生じ、ときには失明に至る場合もあります。今後、さらに、コンタクトレンズの使用を希望する人は老若男女を問わず増加することは明らかですが、コンタクトレンズの普及に伴い、コンタクトレンズに対する誤った認識が広まることも懸念されます。そこで、少しでも多くの方々に、コンタクトレンズは医療用具であり、医師による処方、指導、管理が必要であることをご理解いただけるよう、コンタクトレンズを効果的に安全にかつ快適に使用するためのポイントを本書で述べようと思います。

ところで、現代の医療現場においては、“インフォームドコンセント”が欠かせないものとなっています。

当然コンタクトレンズ診療においても、医師と患者の信頼関係を築くために“インフォームドコンセント”は重要で、コンタクトレンズの選択、処方にとどまらず、レンズケア、コンタクトレンズ処方後のクレーム、コンタクトレンズ装着に伴う合併症など、コンタクトレンズに関するあらゆる点で必要となります。また、コンタクトレンズ量販店の進出や安売り広告、他科の医師や無資格者によるコンタクトレンズ処方、インターネットや通信販売などの医師の診察、検査を介さないコンタクトレンズの購入といったような、時代の流れとともに多様化するコンタクトレンズ問題、これに伴って生じたトラブルへの対応についても十分な説明をしなければなりません。しかし、実際には、患者に十分納得してもらうためにどのような説明をすればよいか苦慮することが多いようです。そこで、本書は、日々の外来において患者からよく質問される内容を取り上げ、むずかしい表現を使用せず、なるべくわかりやすくQ&A方式で解説しました。忙しい外来の限られた時間のなかでスムーズなインフォームドコンセントが行われるために、少しでも役に立つことができれば幸いです。（序より）

■ 内 容 ■

- 56項目のQ&A
- 10項目の付録
- カラー写真・図など多数

A5判 総360頁 写真・図（カラー・モノクロ）104点収録

定価（本体1,400円+税）

眼科領域に関する症候群のすべてを収録したわが国初の辞典の増補改訂版！

眼科症候群辞典

<増補改訂版>

【監修】 内田幸男（東京女子医科大学名誉教授）
堀 貞夫（東京女子医科大学教授・眼科）

「眼科症候群辞典」は、多くの眼科研修医から眼科専門医制度認定医、さらにはこれらの人たちを教育する立場にある教室のベテランの医師たちにも、至便の書としてたえず傍らに携えられてきた。

本書は眼科に関連した症候群の、単なる眼症状の羅列ではなく、疾患自体の概要や全身症状について簡潔にのべてあり、また一部には原因、治療、予後などの解説が加えられている。比較的珍しい名前の症候群や疾患のみならず、著名な疾患の場合でも、その概要や眼症状などを知らうとして文献や教科書を探索すると、意外に手間のかかるものである。ことに、日常外来の最中に他科から診察を依頼された疾患の眼合症状のような場合、図書館にかけこんで調べる暇はない。

あらたに追補したのは95項目で、Medlineや医学中央雑誌から拾いあげた。執筆に当たっては、眼科系の雑誌や教科書とともに、内科系の症候群辞典も参考にさせていただいた。本書が第1版発行の時と同じように、多くの眼科医に携えられることを期待する。

<改訂版への序文より>

<本書の特色>

1. 眼科領域で扱われている症候群をアルファベット順にすべて収録(総509症候群)。
2. 各症候群の「眼所見」については、重点的に解説。
3. 他科の実地医家にも十分役立つよう歴史・由来・全身症状・治療法など、広範な解説。
4. 各症候群に関する最新の、入手可能な文献をも収載。

A5判 美装・堅牢 総360頁 収録頁目数：509症候群

定価（本体6,600円+税）

視覚電気生理アトラス

【著】 沖坂重邦（防衛医科大学校 教授）・吉井 大（防衛医科大学校 講師）

形態学的観察を通して病態を理解する場合、眼底組織の正常構造を頭の中に抽出し、そこに種々な病的所見を加えながら、病変から病因の解明へと進んでいきます。すなわち、眼底が透視可能ならば、まず双眼側像鏡で眼底の全体像を把握し、さらに詳細な検討を三面鏡を使った細隙灯顕微鏡を通して行います。問診、視診などから直感で詳細な検査に進むのではなく、外眼部、眼位、眼球運動、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査などを、一つ一つオーソドックスに積み重ねていきます。

形態学的観察と機能的検査の種々なデータをつきあわせて、総合的に病態を解明する際に、得られた生のデータ一つ一つがすべて正しいものとして解析できるように常に正常状態のデータに自信をもてるようにしておく必要があります。さもないと病態の解明が進まないだけでなく、支離滅裂な解釈をしなくてはならなくなります。得られたデータに自信をもって、形態と機能を融合させて病態を理解し、診断・治療に進んでいきたいと祈念しています。（序文より）

■ 内容目次 ■

- I 眼底の構造
- II 視覚電気生理学的検査
- III 症例
 - (1) 黄斑疾患
 - 1. 加齢黄斑変性（漿液性剥離期）
 - 2. 加齢黄斑変性（網膜下血腫型）
 - 3. 乾性加齢黄斑変性
 - 4. 網膜色素上皮剥離
 - 5. 胞状網膜色素上皮剥離
 - 6. 中心性漿液性網脈絡膜症
 - 7. 網膜前線維症
 - 8. 突発性黄斑円孔
 - 9. 傍中心窩毛細血管拡張症
 - 10. 傍中心窩毛細血管拡張症（光凝固後）
 - 11. 結晶沈着網脈症
 - (2) 炎症疾患
 - 12. 多発一過性白点症候群
 - 13. 原田病（急性期）
 - 14. 原田病（回復期）
 - 15. 後部強膜炎
 - (3) 血管病変
 - 16. 網膜中心動脈閉塞症（治療前）
 - 17. 網膜中心動脈閉塞症（治療後）
 - 18. 網膜動脈分枝閉塞症
 - 19. 網膜中心静脈閉塞症（光凝固前）
 - 20. 網膜中心静脈閉塞症（光凝固後）
 - 21. 網膜静脈分枝閉塞症（光凝固前）
 - 22. 網膜静脈分枝閉塞症（光凝固後）
 - 23. 陈旧性網膜静脈分枝閉塞症
 - 24. 網膜細動脈瘤
 - 25. 網膜血管炎
 - (4) ジストロフィ
 - 26. 定型的網膜色素変性
 - 27. 非定型的網膜色素変性
 - 28. 区画型網膜色素変性
 - 29. 色素性傍静脈網脈絡膜萎縮症
 - 30. 全脈絡膜萎縮
 - 31. 錐体ジストロフィ
 - 32. 卵黄状黄斑ジストロフィ
 - 33. 良性中心性輪状黄斑ジストロフィ
 - 34. 中心輪紋脈絡膜萎縮症
 - 35. 杆体錐体ジストロフィ
 - 36. 小口病
 - 37. 網膜色素線条
- (5) 全身疾患と眼
 - 38. 糖尿病網脈症
 - 39. 高血圧性視神経症
 - 40. 腎性網脈症
 - 41. 抗リン脂質抗体症候群
 - 42. アレルギー性肉芽腫性血管炎
 - 43. 三角症候群
- (6) 腫瘍
 - 44. 網膜海綿状血管腫
 - 45. 脈絡膜悪性黒色腫（光凝固前）
 - 46. 脈絡膜悪性黒色腫（光凝固後）
 - 47. 結節性硬化症
 - 48. 視神経乳頭メラノサイトーマ
 - 49. 視神経乳頭メラノサイトーマ（2年後）
- (7) 網膜剥離
 - 50. 網膜剥離（術前）
 - 51. 網膜剥離（術後）
 - 52. 網膜剥離自然治癒例
- (8) 緑内障・視神経疾患
 - 53. 正常眼圧緑内障
 - 54. レーベル病
 - 55. 傾斜乳頭症候群
- (9) その他の疾患
 - 56. 放射線網脈症（光凝固前）
 - 57. 放射線網脈症（光凝固後）
 - 58. 猫ひっかき病
 - 59. 強度近視
 - 60. 心因性視覚障害

医学におけるわかりやすい 統計学

米虫節夫（近畿大学農学部 教授）【編著】

寺嶋達雄（参天製薬株式会社 臨床開発本部）・榎 秀之（千寿製薬株式会社 前臨床グループ）【著】

＜推薦文＞ 田野保雄（大阪大学医学部眼科 教授）

統計学は難しい、ところが、難しいはずの統計学が最近は何と身近になっているようである。コンピュータが発達したおかげで、かつては膨大な費用と時間を要した多変量解析なども瞬時に行えるようになっていく。大変にありがたいことではあるが、ごく標準的なコンピュータソフトを用いれば、大概の統計処理が簡単にできるようになったものの、いい加減に適当な手法を選択しても、それなりに必ずしもっともらしい答えが得られるだけに、困ったものである。一方、統計処理が身近になったお陰で、学術誌への投稿を始めとして、統計手法の適切な選択と実践に対する要求度が高くなってきている。ありがた迷惑などと不謹慎なことを言うつもりはないが、今日ほど統計学の正しい知識が要求されるようになった時代は未だかつてなかったのではないかと。

統計学の苦手な先生方を念頭におきながら、月刊誌『あたらしい眼科』誌上でシリーズを続けられた結果が、本書である。知らない間に嘘をつかないためにも、よそで恥をかかないためにも、さらには、優れた学術論文をまとめるためにも、本書が大いに活用されることを期待して止まない

＜推薦文＞ 大橋裕一（愛媛大学医学部眼科 教授）

白いものが混じる長髪を後ろで束ね、生粋の大阪弁を操る怪しい人物に初めて出会ったのはある会社の新薬研究会の席上であった。「どうも名前は米虫と言うらしい、それって芸名だろうか？ こんなおっさんで大丈夫？」僕の心に不安がよぎる。しかし、治験プロトコルの検討が始まるや否や、それが単なる杞憂だったと理解できた。発するコメントは的を得て、とても実践的、臨床研究解析の勘所を実によく心得ている。酒癖が少々悪い点を差し引いても、いつも味方につけておきたい存在である。そんな米虫イズムを満載した眼科医のための統計学入門書が出来上がった。この本を一冊持てば米虫先生がそばにいるのも同然、「統計学はどうもね…」と尻込みするあなたの悩みを一気に解決してくれるに違いない

■ 内 容 ■

I 序 説

1. 症例報告から法則性の発見へ
2. 臨床試験実施時のポイント
3. 統計解析ソフトについて

II データのまとめ方

- 1 データの4尺度
- 2 誤差の4条件
- 3 中心的傾向の示し方
- 4 ばらつきの数量的示し方
- 5 ヒストグラムと分布

III 検定と推定の考え方

- 1 計量値の分布：正規分布
- 2 検定と推定の考え方
- 3 母平均に関する検定と推定

IV 2つの平均値の比較

- 1 2つの平均値に関する検定と推定（パラメトリック法）
- 2 2つの平均値に関する検定（ノンパラメトリック法）

V 3つ以上の平均値の比較

1 3つ以上の平均値に関する検定（パラメトリック法）

- 2 3つ以上の平均値に関する検定（ノンパラメトリック法）

VI 計数値

- 1 計数値の分布
- 2 計数値に関する検定と推定

VII 多重比較

- 1 3つ以上の平均値に関する多重比較－多重比較の考え方－
- 2 3つ以上の平均値に関する多重比較（パラメトリック法）－分散分析後の検討－
- 3 3つ以上の平均値に関する多重比較（ノンパラメトリック法）－Kruskal-Wallis 検定後の検討－

VIII 2つの変量間の関係

- 1 相関分析
- 2 単回帰分析

IX 練習問題（問題1～11）

【付録】統計的方法に関するJISとISOの動向

A4変型 総172頁 図表243点

定価（本体 6,000円＋税）

2万件のレーザー治療の経験をもとに、術前から治療まで、治療の経過を追った初の治療図譜！

眼底レーザー治療図譜

戸張幾生（東邦大学眼科学・教授）【著】

今日レーザー治療は、眼科治療の大きな分野を占めており、重要な治療手段の1つになっている。レーザー光凝固治療がはじまってから、すでに30年になろうとしているが、レーザーのアトラスはあっても治療図譜は出版されていない。本書の出版にあたって、術前のカラー写真、蛍光眼底写真、凝固直後のカラー写真、経過を追い治療したカラー写真がすべて見るに耐える状態に撮影されており、さらに同一術者の手（凝固手技）によるものを原則として、種々の疾患をカバーすることを考慮した。治療頻度の多い5大疾患を中心に、同じ疾患でも症例により、いかに病態が違うかを、多数例で提示した。（序文より）

■ 内 容 ■

1～9. 網膜裂孔

孤立性弁状裂孔／変性巣縁裂孔／硝子体癒着牽引裂孔／周囲に剥離のある孤立性裂孔

10. 網膜円孔

遊離弁円孔

11. 網膜赤道部変性

12～26. 中心性網脈絡膜症

円形漏出／噴出型漏出／斑紋／面状漏出／色素上皮剥離／再発例／両眼再発例／誤診例／中心窩外漿液性剥離

27～42. 加齢黄斑変性

小型の新生血管板／出血性色素上皮剥離／漿液性色素上皮剥離／神経上皮下出血／円板状病巣／再発例

43～65. 糖尿病網膜症

単純網膜症／増殖前網膜症／増殖網膜症

66～101. 網膜静脈分枝閉塞症

上耳側静脈閉塞／上耳側黄斑静脈閉塞／下耳側静脈閉塞／下耳側黄斑静脈閉塞／上半周閉塞／

下半周閉塞／陳旧例

102～114. 網膜中心静脈閉塞症

若年例／非虚血型／若年例・非虚血型／切迫型→非虚血型／非虚血型→虚血型／虚血型／切迫型→虚血型

115～125. 網膜細動脈瘤

静脈分枝閉塞症型／両眼症例／網膜前出血型／網膜下血腫型／漿液性剥離型／輪状白斑型／拍動性細動脈瘤／静脈分枝閉塞症治療後発症例

126～128. 傍中心窩毛細血管拡張症

129～133. 粟粒血管腫症

134～135. Coats病

136～138. Hippel病

139～141. 新生血管黄斑症

強度近視／網膜色素線条

142～143. 脈絡膜血管腫

144. 脈絡膜悪性黒色腫

145～146. 脈絡膜転移癌

A4変型 総266頁 写真（カラー・モノクロ）801点 図表17点

定価（本体25,000円＋税）

開放隅角緑内障の半数以上を占める「正常眼圧緑内障」の
診断の要点、治療の実際について、最新の情報を提供！

正常眼圧緑内障の診療戦略

北澤克明・沖坂重邦【編集】

- I 正常眼圧緑内障について（沖坂重邦）
- II 正常眼圧緑内障の診断【眼底】（阿部春樹）
 - 1. 定義と診断基準／2. 高眼圧緑内障との共通点と差異／3. 鑑別診断と細分類／4. 緑内障眼と非緑内障眼の差異／5. 乳頭周囲網脈絡膜萎縮と視野／6. HRTとNFAの緑内障診断における感度と特異度／7. 網膜神経線維層厚と視野／8. NTGの診断と定義における問題点／9. まとめ
- III 正常眼圧緑内障の診断【視野】（鈴木康之）
 - 1. 正常眼圧緑内障の診断における視野検査の意義／2. NTGとPOAGの視野欠損パターンの相違／3. 新しい視野検査によるNTG診断／4. まとめ
- IV 正常眼圧緑内障の治療【薬物】（山本哲也）
 - 1. 眼圧下降治療薬の効果と限界／2. 眼圧下降を介さない薬物治療／3. 神経保護薬物による緑内障治療の可能性／4. 正常眼圧緑内障の治療指針（まとめとして）
- V 正常眼圧緑内障の治療【手術】（根木 昭）
 - 1. 術式の選択／2. 線維芽細胞増殖阻害薬併用トラベキュラクトミーの眼圧下降効果／3. 視野障害進行への効果／4. 手術のリスク／5. 合併症対策／6. インフォームド・コンセントに必要なこと
- VI 症例検討（沖坂・北澤・阿部・鈴木・山本・根木・山田敬子）——症例 1・2・3

眼底、視野所見を重視した検診法をとり入れたわが国の緑内障疫学調査（平成3年）の結果、正常眼圧緑内障が開放隅角緑内障の半数以上を占めることが明らかとなった。また、開放隅角緑内障は多因子疾患であるという認識が定着し、循環障害による視神経の虚血が危険因子として注目されてきている。このように正常眼圧緑内障に対する理解が深まってきているにもかかわらず、正確な診断とその治療技術が必ずしも容易でないという点で、正常眼圧緑内障はわれわれ眼科医にとってむずかしい疾患の一つである。

本書は、正常眼圧緑内障の診断としての眼底検査、視野検査の要点、治療としての薬物と手術の適応と実際について解説した。

なお、本書は第9回日本緑内障学会（平成9年9月）でのシンポジウム「正常眼圧緑内障の診療戦略」をまとめたものである。

（序より）

A4変型・総64頁 写真・図表150点

本体価格：4,700円

眼底疾患に遭遇する機会が著しく増えている眼科医に、診断・治療のポイントを提示！

■ どのように診断・治療
したら、よいのか ■

実践 眼底疾患

【編集】湯沢美都子（日本大学医学部眼科・助教授）・竹田宗泰（市立札幌病院眼科・部長）

近年、生活習慣の変化や高齢人口の増加に伴い、糖尿病網膜症や加齢黄斑変性が増加し、眼科学の進歩に伴い、いくつかの新しい臨床疾患概念が確立され、眼底疾患に遭遇する機会が急増しました。

本書は、長年眼底疾患の臨床に携わってきたエキスパートの先生方の共同執筆による、眼底疾患の実践的な解説書で、患者さんを前にした時、いかに診断し、何時どのように治療するかを、わかりやすく記載しました。「ちょっと一息」や「診断と治療のポイント」では、疾患や治療に対する考え方、こつ、ヒントなどを盛り込みました。（序文より）

■ 内 容 ■

I 眼底疾患を理解するために必要な知識

1. 正常眼底
2. 臨床に必要な眼底組織の形態学
- 3-1. 蛍光眼底造影（フルオレセイン蛍光造影）
- 3-2. 蛍光眼底造影（インドシアニングリーン蛍光造影）
4. 電気生理学的検査
5. 眼底疾患における超音波診断
6. 硝子体および網膜表面の細隙灯顕微鏡検査
7. 光凝固の原理と適応
8. 最近の硝子体手術の拡大

II 黄斑部疾患

1. 中心性漿液性網脈絡膜症
2. 多発性後極部網膜色素上皮症（胞状網膜剥離）とUveal effusion
3. 囊胞様黄斑浮腫
- 4-1. 特発性黄斑円孔
- 4-2. 黄斑円孔網膜剥離
5. 黄斑部網膜上膜
6. 血管新生黄斑症
- 7-1. 加齢黄斑変性一初期加齢黄斑症
- 7-2. 加齢黄斑変性一萎縮型
- 7-2. 加齢黄斑変性一滲出型
8. 網膜色素上皮剥離
- 9-1. 網膜色素上皮裂孔
- 9-2. Microrip
10. 黄斑ジストロフィ
11. その他の珍しい黄斑疾患

III 炎症性疾患、ぶどう膜炎

1. 眼トキソプラズマ症
2. サルコイドーシス
3. ベーチェット病
4. 原田病
5. 中間部ぶどう膜炎
6. 後部強膜炎
7. 急性網膜壊死
8. エイズに関連した網脈絡膜炎
9. Birdshot chorioretinopathy
10. Multiple Evanescent White Dot Syndrome
11. 急性後部多発性斑状網膜色素上皮症
12. 地図状脈絡膜症
13. Eales病
14. 犬回虫症（トキソカラ症）
15. 真菌性眼内炎

IV 網脈絡膜血管病変

1. 糖尿病網膜症
2. 高血圧性網膜症と高血圧性脈絡膜
3. 網膜中心動脈閉塞症
4. 網膜動脈分枝閉塞症
5. 網膜中心静脈閉塞症
6. 網膜静脈分枝閉塞症
7. 網膜細動脈瘤
8. 特発性傍中心窩網膜血管拡張症
9. Coats病・Leber病

V 網脈絡膜変性

1. 遺伝性網膜・硝子体ジストロフィ
2. 網膜色素変性と類緑疾患
3. Gyrate atrophyと類緑疾患
4. 夜盲をきたす疾患
5. 網膜色素線条症

VI 全身疾患と眼

1. 母斑症
2. 高安病
3. 全身代謝異常
4. 妊娠と眼
5. 血液疾患、膠原病、高脂血症など

VII 網脈絡膜腫瘍

1. 腫瘍性疾患
2. 血管性腫瘍

VIII 周辺部疾患

1. 裂孔原性網膜剥離
2. 網膜格子状変性
3. 未熟児網膜症

IX 視神経疾患

1. 視神経乳頭の先天異常
2. 他の視神経疾患

X その他

1. 外傷による眼底異常
2. 薬剤による眼底異常

■ 診断と治療のポイント

「光凝固を行ってはいけない病変」など17項目

■ ちょっと一息

「形態学的観察と機能的検査の融合」など18項目

B5判 総464頁 図75点・表62点・写真（カラー・モノクロ）609点

本体価格：28,000円

BEARD'S Ptosis 眼瞼下垂

Callahan M & Beard C 著 井出眼科病院 井出 醇 訳

下垂を知るためには、眼瞼のすべてを知らねばならない。本書が眼科医の手引き書となる所以である。高齢化が進んでいるので、老人性（退縮性）下垂や偽下垂（老人性の眼瞼皮膚の弛緩）は急激に増加している。われわれ眼科医に手術を要請される機会が増加する。白内障の次ぐらいに症例数が伸びる可能性がある。従って、下垂の基本手技と共にその変法を学ぶのは有意義である。さらに、下垂手術では特に重要な、informed consentの進め方が随所で説かれている。

(訳者あとがきより)

■ 内 容 ■

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| I 歴 史 | Ⅵ 眼瞼挙筋発育不全性下垂の手術 |
| II 解 剖 | IX ほかの筋原性下垂の外科的治療 |
| III 生理学 | X 腱膜性下垂の外科的治療 |
| IV 病 理 | XI 神経性下垂の外科的治療 |
| V 分 類 | XII 機械的下垂および偽眼瞼下垂の外科的治療 |
| VI 検査法と評価 | XIII 下垂の修正に有用な他の手術法 |
| Ⅶ 眼瞼下垂の手術療法についての一般的考察 | XIV 関連の手術 |

■ 推薦のことは 水野勝義（東北大学医学部名誉教授）

（訳者として）最適任者であると思っていたが、原文と訳文を比較対照してみても、深い学識と永年の経験で裏打ちされた適格な訳文に接して、その感を新たにしました。

■ 推薦のことは 玉井 信（東北大学医学部教授）

井出先生は、開業の傍ら、常に新しい発想と工夫をされ、眼瞼下垂を初め数々の手術をされ、その結果を学会で発表し、世に問うてこられたことが高く評価されて、第7回「高橋記念賞」を受けられました。眼科医として症例ごとに、的確な判断をし、患者に対しその責任を全うすることが求められる臨床医にとって、このような世紀の名著を、日本語訳で読むことができるのは、大変助けになります。

体裁 A4変型 総304頁 図・表・写真222点

本体価格 24,000円

小児眼科へのアクセス

Taylor D & Hoyt C 著

全国小児病院眼科の会【監訳】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1章 緒言 | 15章 緑内障 |
| 2章 眼と視覚の発達 | 16章 硝子体 |
| 3章 屈折異常 | 17章 網膜 |
| 4章 問診, 検査, そして次の段階へ | 18章 前部視路障害 |
| 5章 感染性疾患 | 19章 後部視路障害 |
| 6章 非感染性外眼筋疾患 | 20章 神経代謝疾患 |
| 7章 眼球の異常 | 21章 失読症 (特異的学習障害) |
| 8章 眼瞼と眉毛の異常 | 22章 瞳孔の異常と反応 |
| 9章 眼窩疾患 | 23章 白血病と眼 |
| 10章 結膜 | 24章 母斑症 |
| 11章 角膜 | 25章 外傷 |
| 12章 涙器 | 26章 非器質的視力障害 |
| 13章 ぶどう膜 | 27章 眼振と眼球運動障害 |
| 14章 水晶体 | |

◆翻訳者 (訳出順)

大阪府立母子保健総合医療センター
初川嘉一・山岸智子・川村博久
埼玉県立小児医療センター
大野卓治
国立小児病院
東 範行・大山芳子
福岡市立こども病院
吉村圭子
兵庫県立こども病院
野村耕治
静岡県立こども病院
羅 節營
国立療養所香川小児病院
松村香代子
滋賀県立小児保健医療センター
泉 由美・瀧畑能子
大阪大学医学部 眼科学教室
近江源次郎

■ 推薦の辞

日本眼科学会理事長・帝京大学医学部教授 **丸尾 敏夫**

高齢化社会なればこそ、次代を担う小児が大切であり、小児の医療が正しく行えなければ、一人前の眼科専門医とは言えない。

小児眼科学の世界的名著が、日本語になって手軽に読めることは、わが国の眼科に裨益するところ極めて大きい。これを機会に、眼科医が少しでも小児眼科に関心を持ってもらおうと幸いである。(本書より抜粋)

■ 推薦の辞

日本小児眼科学会理事長・神戸大学医学部教授 **山本 節**

本書は、臨床家が手元において使うのに手ごろな書である。本書の特徴としては、記載は今までの書に比べて簡潔に書かれているが、最新の情報が網羅されており、種々の示唆に富んだ貴重な考え方が随所にみられる。遺伝子異常、代謝性疾患、免疫疾患など、小児眼科学の領域はますます広がっており、それらの理解を助けるために、385枚ものカラー写真、イラスト、表などふんだんに取り入れられている。(本書より抜粋)

■ 推薦の辞

大阪府立母子保健総合医療センター副院長・新生児科部長 **藤村 正哲**

小児眼科学に関する小児科医のための一般知識については、本書を紐解いた人はただちにこれで十分であると理解されるだろう。

“本書を座右におき、子どもの目について疑問が生じたとき、すぐにこの本に回答を求める”。この本はその資格を備えている。小児眼科医のコンサルテーションへとつながる道筋に、このテキストをおいて欲しい。そういう意味で小児科臨床医にとっても本書は有用なものだろう。(本書より抜粋)

B5判 総278頁 図・表・写真385点 本体価格10,000円

臨床医学にさまざまな形で応用されつつある〈分子生物学〉の基礎知識と、眼科における適用について解説!

眼科診療のための分子生物学入門

＜監修＞ 木下 茂 (京都府立医科大学)

＜執筆＞ 山下英俊 (東京大学)・谷原秀信 (京都大学)・坂本泰二 (九州大学)・西田幸二 (京都府立医科大学)

【I 基礎編】

1. はじめに/2. 遺伝子情報の本質/3. 転写と翻訳/4. 遺伝子の構造 (エキソンとイントロン) /
5. 遺伝子の組み換え/6. 遺伝子クローニングの理論/7. 蛋白質化学の原理/8. 遺伝子病とは

【II 手法編】

1. 制限酵素/2. PCR (遺伝子増幅技術) /3. *in situ* ハイブリダイゼーション/4. ノーザン・サザンプロット法/5. ウェスタン法/6. ライブラリの作製とクローニング/7. シークエンス法/8. 遺伝子変異の検出/9. 病原体ウイルスの同定

◆各項目ごとに、「基礎知識のワンポイントアドバイス」「データベース」を記載◆

……………＜データベース一覧＞……………

- ザ・制限酵素 ●PCR反応の手順と必要な機器・試薬 ●これだけあれば、*in situ* ハイブリダイゼーションができる ●これだけあれば、ノーザン・サザンプロット法ができる ●これだけあれば、ウェスタン法ができる ●ザ・クローニング (キット) ●これだけあれば、遺伝子情報を読める
- SSCP と DGGE に必要な機材と試薬 ●病原体ウイルス同定に必要な機材と試薬

【III トピックス】

1. 遺伝子治療/2. サイトカイン/3. 増殖因子/4. アポトーシス/5. 分子免疫機構/6. 創傷治癒/7. 細胞接着分子/8. 転写調節と細胞周期

【IV 眼科診療への応用】

1. 角膜・結膜疾患 (ウイルス感染症の DNA 診断/角膜変性症の遺伝子) 2. 水晶体 (水晶体蛋白/白内障の病因/白内障の治療) 3. 緑内障 (緑内障とは? /緑内障に対する分子遺伝学的研究/緑内障における神経節細胞死の分子機構/房水流出路の細胞外マトリックス代謝/遺伝子治療への可能性)
4. 網膜・硝子体疾患の病態とサイトカイン, 増殖因子 (網膜循環障害と血管新生/加齢性黄斑変性症/結合組織性増殖膜の形成/新しい治療薬を求めて) 5. 網膜変性疾患 (疾患原因遺伝子の染色体マッピング/網膜変性疾患の原因遺伝子解明の歴史/網膜色素変性症の疾患原因遺伝子解明と遺伝子診断/網膜変性疾患に対する病態解明と遺伝子治療) 6. ぶどう膜炎 (分子生物学的手法を用いたぶどう膜炎の新しい治療/ぶどう膜炎の病因の研究/ぶどう膜炎の治療) 7. 腫瘍 (悪性リンパ腫/網膜芽細胞腫)
8. 屈折 (遺伝の問題/近視の研究)

■各項目末に、執筆者4人による「座談会」を収録■

B5判 総202頁 図・表・写真 (カラー・モノクロ) 102点

本体価格 6,600円

眼鏡を処方し、加工・調整する際に必要な医学的・工学的および理学的な知識や技術について、体系立てて解説したわが国初のテキスト！

眼鏡医学

上巻：第1～3編

下巻：第4～6編

＜編集＞ 赤木五郎

内容

◆ 第1編 視器 ◆

I 眼の発生

II 眼の解剖

1. 眼球/2. 副眼器/3. 視路/4. 眼球各部の光学的数値

III 眼の機能

1. 光覚/2. 色覚/3. 視力/4. 視野/5. 輻湊と開散/6. 両眼視/7. 眼球運動/8. 眼位/9. 眼圧/10. 涙液分泌/11. 瞳孔運動/12. 調節/13. 屈折

Ⅳ 眼機能の検査法

1. 光覚検査法/2. 色覚検査法/3. 視力測定法/4. 視野測定法/5. 輻湊検査法/6. 両眼視機能検査/7. 眼球運動検査法/8. 眼位検査法/9. 眼圧検査法/10. 涙液量測定法/11. 調節力検査法/12. 屈折検査法/13. 不等像視検査法

V 眼の機能障害とその処置

1. 光覚の障害/2. 視力の障害/3. 色覚の障害/4. 視野の異常/5. 輻湊および開散の障害/6. 融像の障害/7. 眼位の異常/8. 眼球運動の障害/9. 眼圧異常/10. 涙液分泌の異常/11. 瞳孔の異常/12. 調節の異常/13. 屈折の異常

VI 検眼の際、注意すべき症状と眼疾患

1. 視力障害/2. 結膜の発赤と出血/3. 流涙/4. 眼脂/5. 乾燥感/6. 異物感/7. 眼痛/8. 羞明/9. 飛蚊症/10. 夜盲/11. 昼盲/12. 掻痒感/13. 複視/14. 眼精疲労/15. 視野の異常/16. 眼球突出/17. 眼球陥凹/18. 眼瞼下垂/19. 眼瞼腫脹/20. 眼瞼内反と睫毛乱生症/21. 眼瞼外反/22. 変視症/23. 大視症/24.

小視症/25. 青視症

◆ 第2編 光学 ◆

I 光学の基礎

1. 光/2. 光の一般的性質/3. 測光

II レンズに関する光学

1. プリズム/2. レンズ/3. レンズの種類と表示法/4. 結像公式/5. 収差

III 眼に関する光学

1. 眼球光学/2. 生理光学

Ⅳ 眼鏡に関する光学

1. 矯正レンズの光学/2. 眼鏡レンズのプリズム作用/3. 眼鏡レンズの倍率/4. 矯正レンズにおける光学的問題点

◆ 第3編 眼鏡 ◆

I 眼鏡の歴史

1. 眼鏡の誕生/2. 眼鏡の普及と変遷/3. 眼鏡の日本伝来/4. 情報化社会と眼鏡

II 眼鏡レンズ

1. 眼鏡レンズの素材/2. 眼鏡レンズの種類/3. 眼鏡レンズの規格/4. レンズの製造工程/5. ニーズとレンズ選定

III 眼鏡フレーム

1. 眼鏡フレームの分類/2. 眼鏡フレームの規格/3. 眼鏡フレームの各部分名称/4. 眼鏡フレームの素材/5. 眼鏡フレームの製造工程/6. 眼鏡フレームのニーズとその選定

Ⅳ 特殊眼鏡

1. 治療用眼鏡/2. 検査用眼鏡/3. 保護用眼鏡

V ロービジョンの補助具

1. 弱視/2. 拡大補助機器の適応性と拡大法/3. 近方視用補助具/4. 遠方視用補助具/5. テレビ式拡大読

書器/6. 補助機器の申請/7. 視覚障害者の実状

◆ 第4編 眼鏡美学 ◆

I 顔と眼鏡の形

1. 形の心理/2. 顔の形態と印象/3. 顔と眼鏡デザインの調和

II 色彩と眼鏡

1. 色の仕組み/2. カラーコーディネート/3. 眼鏡のカラーコーディネート

III パーソナリティの表現

1. 顔にあらわれる個性/2. 装いの効用/3. 美と創造

◆ 第5編 眼鏡の加工と調整 ◆

I 眼鏡の加工・調整

1. 眼鏡の加工・調整の概念/2. 眼鏡処方箋の理解/3. 眼鏡の光学要素

II 眼鏡の設計

1. 眼鏡フレームの選定/2. 眼鏡レンズの選定/3. 基本フィッティング/4. 瞳孔中心の位置決定/5. レイアウト設計

III 加工・調整の実際

1. 加工・調整の心得/2. 加工・調整の手順/3. 多焦点レンズの加工法

Ⅳ 特殊加工

1. ナイロールフレーム/2. ポイントフレーム/3. 特殊レンズの加工

V 眼鏡の調整・装用（フィッティング）

1. 調整・装用の理論/2. 調整・装用の実技/3. 応用調整

VI 眼鏡修理

1. 眼鏡修理の実技

◆ 第6編 眼鏡関連法規 ◆

- I 視力測定に関する法規/II 業事法と眼鏡/III 景表法と公正競争規約/IV 眼鏡と福祉関連法規/V PL法制定とその対応
付：公正競争規約・施行規則（眼鏡）

B5判 全2色刷 全2巻 [総頁534頁 図表・写真770点 (カラー含む)] 本体価格：16,019円 [分売不可]

Ocular Surfaceの診断と治療

—ドライアイ—

慶應義塾大学医学部教授・眼科 小口 芳久〈監修〉 東京歯科大学助教授・眼科 坪田 一男〈編集〉

ドライアイの患者が増加している。原因は不明であるが少しずつ関心も深まり、研究も進んでいる。ドライアイは従来より涙液分泌減少症や眼乾燥症などといわれていたが、疾患概念、詳しい検査法、治療法などについての知識が不足している。アメリカでは10年ほど前よりOcular Surface(眼の表面全体)という概念が現れ、角膜上皮、結膜上皮、涙液の3者を併せて考えるようになってきている。ドライアイを正しく理解し治療していくためにはこの3者を併せて考えなければならない。そこで、ドライアイを中心としてOcular Surfaceに焦点を絞ったテキストブックを刊行した。本書は、Ocular Surfaceの生理から、ドライアイの最新の研究まで網羅している。またドライアイと関連の深いアレルギー性結膜炎、コンタクトレンズなどOcular Surface疾患や、ドライマウス、ドライスキンなど全身の乾きについてもまとめて記述を試みた。これらの疾患は失明につながるような重篤な疾患ではないものの、患者数が圧倒的に多く、Quality of lifeの面からは重要な疾患である。また、シェーグレン症候群などの自己免疫疾患や、全身のアレルギーなど全身疾患とも関係が深い。

本書は、一般眼科医、研修医、眼科研究者、リウマチの診療を行っている内科医、歯科医にとっても、ドライアイを理解するのに都合のよい本と考える。

◆ 内 容 目 次 ◆

第I章 ドライアイの基礎事項

- A. ドライアイの最近の考え方〔坪田一男〕
- B. ドライアイの症状〔戸田郁子〕
- C. 涙腺の正常と異常〔小幡博人・澤 充〕
- D. 涙液の正常と異常〔小川葉子〕
- E. 角膜上皮〔真島行彦〕
- F. 結膜上皮〔深川和己〕

第II章 ドライアイの診断

- A. 一般検査および角結膜上皮の検査〔戸田郁子〕
- B. 涙液の検査〔小野真史〕
- C. 全身検査〔吉野健一〕

第III章 ドライアイと関連眼疾患

- A. ドライアイとアレルギー性結膜炎〔高村悦子〕
- B. ドライアイとコンタクトレンズ〔山田昌和〕
- C. ドライアイと眼科手術〔ピッセン・宮島弘子〕
- D. ドライアイと眼瞼炎〔島崎 潤〕
- E. ドライアイとVDT〔佐藤直樹〕

第IV章 ドライアイと全身異常

- A. シェーグレン症候群、自己免疫疾患〔東條 毅〕
- B. ドライマウス

- B-1. 原因と症状〔永井哲夫〕
- B-2. 検 査〔野々山 進、片桐重雄〕
- B-3. 治 療〔西村 敏〕
- C. ドライスキン〔菊池 新、清水 宏、西川武二〕
- D. ドライバジャイナ〔宮崎豊彦・吉田丈児〕
- E. ドライノーズ〔川井田政弘〕

第V章 ドライアイの治療

- A. 人工涙液(防腐剤を含む)〔山田昌和〕
- B. 涙液の保持—モイスチャーエイド〔坪田一男〕
- C. 涙点閉鎖〔濱野 孝〕
- D. 将来の治療〔藤島 浩〕

第VI章 ドライアイの原因を求めて

- A. シェーグレン症候群の病因論〔宮坂信之〕
- B. ドライアイとウイルス感染〔斎藤一郎〕
- C. ドライアイとHLA〔大竹雄一郎・康 浩一〕
- D. ドライアイにおける結膜上皮の角化〔苗加謙広〕
- E. ドライアイにおける結膜上皮の炎症細胞〔引地泰一〕

付. 慶應義塾大学および東京歯科大学ドライアイクリニックでの実際の診療〔八木幸子〕

B5判 総256頁 写真(カラー・モノクロ)141点 図84点 表68点 本体価格:6,650円

好評発売中のロングセラーの大幅な改訂／視能訓練士のテキストとしても最適！

視能矯正マニュアル

〈改訂版〉

川村 緑・原沢佳代子・深井小久子【編集】

I 眼科一般検査法

A. 視力／B. 屈折／C. 調節／D. 視野／
E. 色覚／F. 光覚／G. 眼圧／H. 眼位、
眼球運動／I. 電気生理学的試験／J. 眼科
写真撮影術

II 斜視の知識

A. 斜視の概念／B. 斜視の生理学／C. 斜
視の分類

III 斜視の検査

A. 問診／B. 固視検査／C. 屈折検査／
D. 眼位検査／E. 眼球運動／F-1. 日常視
を重視した、簡単な器械を使用しての両眼
視機能検査法／F-2. 中心窩視方向下の検
査

IV 斜視の治療

A. 視能矯正の理論／B. 有効な視能矯正を
するための診断法／C. 視能訓練の実際

V 弱視の知識

A. 弱視の概念／B. 小児視力の発達と特
性／C. 弱視の神経生理学／D. 弱視のタ

イプ

VI 弱視の検査

A. 問診／B. 固視検査／C. 屈折検査／
D. 眼位検査

VII 弱視の治療

A. はじめに／B. 弱視の診断と屈折矯
正／C. 弱視視能矯正訓練／D. Social
pieoptics（社会的啓蒙の必要性）

VIII 視能矯正における眼鏡

A. より良き眼鏡のための基礎知識／
B. 視能矯正で用いられる眼鏡／C. 小
児によるこぼれる眼鏡のポイントと工夫

IX パーソナル・コンピュータによるデー タ管理

A. はじめに／B. データの管理／C. デ
ータの管理と処理の事例／D. おわりに

X 視覚障害者のリハビリテーション

A. リハビリテーションの実際／B 知
っておきたい援助と手続き

本書は、視能訓練士の立場からみた、わかりやすく実地に役立つ視能矯正の学習書をめざして出版された。その後6年の間に、電気生理学的な機器やパソコンの応用の発展などは、当時の予想をこえるものがある。また、社会的にロービジョンのリハビリテーションに対する理解が深まり、視能訓練士の役割にもいっそうの期待が高まっている。さらに、眼科一般の検査や訓練の基本についても、常に最近の進歩をとり入れ、精度を高める必要がある。このため今回、それぞれの執筆者にお願いして改訂した。

B5判・総320頁 写真・図表300点

本体価格：6,600円

今年度もわかりやすい2色刷 執筆者からのワンポイントアドバイス付き!

視能訓練士—スペシャリストへの道(4)—

国家試験問題集・解答と解説 平成18年版

【編集】 山本 節 (神戸大学 名誉教授)

【編集協力】 鵜飼一彦 (早稲田大学理工学部 教授) 関谷善文 (関谷眼科クリニック 院長)

初川嘉一 (大阪府立母子保健総合医療センター眼科 部長)

視能訓練士国家試験が施行されてから30余年になりますが、平成17年からは試験問題の分野が、以前の発達臨床心理学、視器の解剖と生理、眼の機能など9分野から、基礎医学大要、基礎視能矯正学などの5分野に変更されました。また、今年度からは、記述式の問題がなくなって、選択肢式の問題となり問題数も増えました。そこで昨年までの問題解答と解説集は3年分をまとめて一冊にしておりますが、今年からは1年分で一冊にまとめました。

今回も本書に関して日本弱視斜視学会、日本視能矯正学会などで活躍されている先生方、視能訓練士の方々に執筆のご協力をお願いして、各問題の解答とともに問題に関連する事柄の解説を理解しやすくまとめていただきました。なお、試験問題の解答については、それぞれの担当者が出題の意図を考えながら、問題点のある場合は編集協力者とも相談して、解説を加えて解答したもので、厚生労働省から発表された正解と多少異なっている場合があるかもわかりません。この点については解説を読んでいただき、解答者の意を汲み取って下されば幸いです。

本書は単なる試験問題解答集ではなくて、索引を活用して日常診療における参考書としても利用できるものと思っております。このことから本書が視能訓練士ならびに視能訓練士国家試験受験関係者に広く利用され、役立つことを願っております。

(序文より)

■ 内容目次 ■

I 基礎医学大要 II 基礎視能矯正学 III 視能検査学 IV 視能障害学 V 視能訓練学

※すべての問題に解答と解説を付与、カラー写真問題もそのまま掲載

A5判 上製 総228頁 写真・図表 多数収録 定価4,200円(本体4,000円+税)

好評既刊の3冊!!

視能訓練士—スペシャリストへの道—

国家試験問題集・解答と解説 平成9年~11年版

A5判 上製 総326頁 写真・図表 多数収録 定価5,880円(本体5,600円+税)

視能訓練士—スペシャリストへの道(2)—

国家試験問題集・解答と解説 平成12年~14年版

A5判 上製 総282頁 写真・図表 多数収録 定価4,830円(本体4,600円+税)

視能訓練士—スペシャリストへの道(3)—

国家試験問題集・解答と解説 平成15年~17年版

A5判 上製 総282頁 写真・図表 多数収録 定価4,830円(本体4,600円+税)

アトラス 斜視

Gunter K. von Noorden <著>

The C. V. Mosby Company 刊

西眼科病院院長 西 興史 <監訳>

西眼科病院 斎藤純子 <訳>

本書は、Atlas という名が示すごとく、図やイラストレーションが主体の斜視の診断学の本である。図に加えて、斜視に関する診断上必要不可欠なことがテキストとして簡潔にまとめられている。

本書の対象は著者等によれば、専門医をめざす若い眼科医である。しかし、多岐にわたる斜視の診断に関する諸検査法の意義と理論的裏づけ、限界と問題点が総合的に、簡潔に提示されているので、エキスパートが時に自分の知識をチェックするにも有用であろう。また、斜視は基本的には、先天性、または乳幼児の疾患である。勤務医を含めて開業医の中には、日頃患者を見ればついそのまま小児病院のような機関へ送ってしまいがちな方も多と思われる。しかし、専門医制度が発足した現在、やはり自分が扱える範囲と限界を知るためにも、必要な知識と診断法は身につけておくべきであろう。それには本書は適切な本である。

斜視は多くの症状、所見を総合して考え、理解し、はじめて治療に移行するのであるが、本書を読むことによって自然に、斜視に対する組織的な考え方、対処法が身についてくる。この点が本書の最も価値のある所であろう。(監訳者のことばより)

◆ 内容目次 ◆

I. 外眼筋の解剖と生理

外眼筋の動き
外眼筋の地図
Tillaux の螺旋
眼球の主軸
単眼および両眼の運動
診断的眼位
Hering の同等神経支配の法則

II. 偽斜視

偽内斜視 (内眼角贅皮)
偽外斜視 (両眼隔離症)
偽上斜視
角膜光反射が中心にない時の鑑別診断

III. 斜視の質的診断

斜視の診断のためのカバーテスト
斜位を調べるためのカバー・アンカバーテスト

IV. 斜視の定量診断

Hirschberg テスト
Krimsky のプリズム反射テスト
プリズムカバーテスト

斜位のための Maddox 桿テスト

プリズム分離テスト
Maddox 二重プリズムテスト
Maddox 二重桿テスト
回旋偏位での眼底所見
眼球偏位を計測するための複視の検査
片眼の斜視か交代性斜視か

V. 感覚状態の評価

視力
立体視のための2本の鉛筆テスト
抑制
弱視
網膜対応

VI. 運動状態の評価

筋の運動と不全運動 (水平筋、斜筋)
東洋人患者の内直筋の偽過動
牽引運動とその適応
筋力の総合評価
小さな子どもでの両側外転麻痺の鑑別診断
開散の過剰と偽開散過剰

頭位の異常

垂直偏位の診断
分離垂直偏位
内転位での上転
分離垂直偏位と下斜筋過動との間の鑑別診断
内転位での下転
上転制限
眼窩底骨折
Brown の上斜筋腱症候群
下転の制限
上転と下転の制限 (斜偏位)
水平斜位での A-V パターン

VII. 斜視のいくつかの型

調節と内斜視
幅湊痙攣
Duane の後退症候群
固定斜視
N III 麻痺
動眼神経の異常再生
眼球筋症
外眼筋の汎線維化
Marcus Gunn (Jaw-Winking) 現象

B5判 総234頁 写真70点 図77点

本体価格: 8,000円

執筆者100余名によるわが国初の眼科領域における辞典！

眼科学辞典

〔編集〕 帝京大学教授 丸尾敏夫 奈良県立医科大学教授 西信元嗣 東京大学教授 増田寛次郎

近年、眼科学の進歩には著しいものがあり、それに伴って新しい用語も次々に目に付くようになってきた。初めて聞き慣れない用語を耳にした時、戸惑うことも少なくない。眼科用語の正しい意味を知るために引用する眼科学辞典があれば日常大変便利ではなからうか、ということから本書が企画された。

本書に収録した用語は、内外の教科書に記載されているのはもちろん、現在使用されているものはおおむね網羅したつもりである。「眼科専門医認定試験出題基準」（日本眼科学会専門医制度委員会）に含まれる用語には印を付け、眼科専門医認定試験を受験する研修医の方々に便宜を図った。また、「医師国家試験出題基準（昭和64年版）」（厚生省）に含まれる用語についても、別の印で医学生にも使用できるようになっている。『眼科用語集』（日本眼科学会）に記載の用語もそれを明らかにしてある。

〈序文より〉

〈目 次〉

第I部 分野別用語解説

1. 眼窩／2. 涙器／3. 眼瞼／4. 結膜／5. 角膜／6. 強膜／7. 水晶体／8. ぶどう膜／9. 網膜／10. 硝子体／11. 視神経・視路／12. 緑内障／13. 屈折・調節異常／14. 弱視・斜視／15. 瞳孔・眼球運動異常／16. 色覚異常／17. 外傷／18. 全身病と眼／19. 構造と生理（眼の発生、眼の神経・血管）／20. 診断（一般検査、形態覚、視野、光覚）／21. 社会・予防医学／22. 非観血的治療（基本的治療手技、薬剤処方）／23. 手術（術前・術後処置、眼内注入物質）／24. 機器（検査・手術）／25. 薬

第II部 項目総索引

第III部 欧語索引

第IV部 略語

●本書の特色

1. 眼科および眼科に関連する用語、背景となっている用語も掲載。
2. 解説用語 4,500項目、参照用語 1,050項目、計 5,550項目を収録。
3. 「眼科専門医認定試験出題基準」「医師国家試験出題基準」「眼科用語集」に掲載されている用語には、各々マークを印してあります。
4. 同義語、参照語を確実に引けるようにしてあります。
5. 用語には欧語を付記。

●体 裁

A5判／総 666 ページ／収録項目数 5,550 項目

本体価格：8,400円

レンズ、フレームの知識から、コンタクトレンズ、眼内レンズまで眼鏡全般にわたり、高度な知識を平易に解説！
今回、検眼のテクニック、眼鏡機器についても新たに章を追加。

〈改訂版〉

眼鏡

編者 糸井素一 (京都府立医科大学教授)
西信元嗣 (東京医科歯科大学教授)
山崎弘仁 (奈良県立医科大学教授)
長谷川弘 (ヤマヒロ眼鏡研究所)
(株式会社ニコン眼鏡事業部)

本書が刊行されてから5年の歳月が経過した、この間、多数の方々に利用していただき、教科書あるいは愛読書として座右に置いている方も少なくないと思う。

この5年間に眼鏡の基本は変わらないが、種々の面で進歩してきている。例えば、眼鏡レンズの素材においても新しい高屈折率レンズが次々と発表されたり、デザインにおいては種々の目的に応じた多焦点レンズ、とくに累進多焦点レンズが発表されたりして、レンズの素材の進歩と相俟って装用感のよいレンズが続々と出てきている。そこで、どのような眼鏡レンズをすすめるか、または処方するかも大切なことになってきている。今回の改訂では、新しい眼鏡レンズの素材や累進多焦点レンズの記載はもちろんであるが、とくに眼鏡レンズの選定上のポイントの章をもうけて、実際に即した眼鏡レンズの選定法を、眼鏡レンズの素材、単焦点レンズ、多焦点レンズの面より記載してある。また、これらのレンズのJIS規格を知っておくことも大切で、これについても追記されているので参考になると思う。

眼鏡以外の屈折異常矯正法としてのコンタクトレンズや眼内レンズの知識も眼鏡矯正の利点、欠点を知るうえで必要である。コンタクトレンズでは、最近種々の酸素透過性ハードコンタクトレンズが発表され、酸素透過係数も100を越えるものが出てきたり、多焦点レンズの開発も行われてきたりしている。そして、最近では回折を利用した二重焦点レンズが話題になっている。また、眼内レンズもバイコンベックスレンズ、二重焦点レンズ、紫外線吸収レンズ、あるいは軟らかいレンズなどの開発も進んできている。このような新しい分野の記載も今回の改訂ではとりあげた。

検眼のテクニックと眼鏡機器の章を新たに追加した。検眼のテクニックの章では検眼の種々の方法と理論が記載されている。また、眼鏡機器の章では、レンズメータ、オートレフラクタメータ、ターレット式自覚検眼機(レフラクター)など新しい機器が網羅されていて役立つと思う。

〈序文より〉

〈内容目次〉

<p>I. フレームの知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フレームの分類 2. フレームの材質 3. 眼鏡フレームの製造 4. 眼鏡フレーム選定上のポイント <p>II. レンズの知識</p> <p>A. レンズの材質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガラス 2. プラスチック <p>B. レンズの種類</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単焦点、多焦点レンズ 2. 視力矯正用 3. 眼位矯正用 4. 保護眼鏡 5. 弱視眼鏡 6. 無水晶体眼矯正用 7. 眼鏡レンズの規格 <p>C. レンズの製造工程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガラスレンズの製造工程 2. プラスチックレンズの製造工程 <p>D. 眼鏡レンズ選定上のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼鏡レンズの分類 2. 眼鏡レンズの素材 3. 眼鏡レンズ選定上のポイント 4. 多焦点レンズ 	<ol style="list-style-type: none"> 5. 多焦点レンズ選定上のポイント <p>III. 眼鏡の処方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視力について 2. 眼の屈折および調節 3. 両眼視機能 4. 屈折検査法 5. 屈折矯正の実際 6. 処方箋の書き方 <p>IV. 眼鏡調整</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼鏡調整の概念 2. 眼鏡処方箋の解説 3. 眼鏡レンズの選定 4. 眼鏡フレームの選定 5. 基本フィッティング 6. 加工調整 7. アフターケア <p>V-A. コンタクトレンズ最新の話</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンタクトレンズ用材料開発の経緯 2. ソフトコンタクトレンズ (SCL) 3. SCLと水 4. コンタクトレンズの種類と特徴の比較 5. コンタクトレンズと眼鏡の違い <p>V-B. 眼内レンズ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼内レンズ用の材質 2. 眼内レンズの種類 3. 光学的な考察 4. 最近のレンズの話題 <p>VI. パラメディカルのための眼科学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼の働き 2. 眼の構造 3. 眼の病気の検査 4. 眼の病気のマネージメントと治療 5. 眼の病気 <p>VII. 検眼のテクニック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他覚的屈折検査法 2. 自覚的屈折検査法 3. いろいろな乱視表 4. 両眼開放下での自覚的屈折検査法 5. いろいろな補助手段 <p>VIII. 眼鏡機器</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レンズメータ 2. PDメータ 3. 撮影器 4. オートレフラクタメータ 5. ターレット式自覚検眼器(レフラクター) 6. 検眼レンズセット 7. 視力表 <p>〈別章〉眼鏡技術に関する用語集</p>
--	--	---

B5判 総274ページ 写真121点 図281点 表71点

本体価格：7,000円

水晶体 その生化学的機構

名城大学薬学部教授 岩田 修造 <編著>

水晶体の透明性維持に関する生化学的機構を探っていくと、実に高度に無駄なく、その機構が運営され消化されているのに気づく。この運営は、水晶体を構成する分子群の連繋と秩序性にもとづく高次元の生物反応であるが、それはあたかも生体に関するすべての仕組みと問題点が、この1個の小さな美しい透明器官に濃縮されているような気がする。

水晶体を光学的立場から巨視的に眺めると、水晶体がダイヤモンドのごとく透明であるか、あるいは濁って醜悪な形になっているかの二つの状態のみである。これを生化学的立場から説明すると、正常な生理機能を作動させるために、構成分子間の認識と応答とが秩序性をもって成立しているのか、あるいは無秩序的に認識-応答が作動して、水晶体の高度な仕組みが崩壊しているのかの二つになる。そこで、二つの様相をつなぐ多種多様のいとぐちとすじみちを知る研究が必要になる。

このように考えると、生体に関する情報を、透明か不透明かという二つの判断で整理しようという場合、水晶体はもっとも確実にこの情報を入手できるモデルであると思われる。そこで、私たちはこの好材料である水晶体の研究を、質的にも量的にも進展させる礎をつくろうと本書の刊行を企画した。そして、私たち自身が現状での水晶体に関する生化学的知見を整理し、これをまとめてつぎの研究のステップとすることを希望した。〈序より〉

<内容目次>

- | | |
|---|--|
| I. 水晶体序論 水晶体の生化学的背景/水晶体研究の史的背景 | V. 水晶体の機能 光学的性質/上皮細胞での合成/細胞配列/膜機能 |
| II. 水晶体の構造特性 眼の構造と水晶体の位置/水晶体の形態形成/水晶体の極性・構造 | VI. 水晶体の外部環境 房水/硝子体/毛様体およびチン氏帯 |
| III. 水晶体の構成成分 カプセルの化学組成/水/無機電解質/タンパク質/脂質/糖質/グルタチオンおよびその他の還元物質/エネルギー関連物質/核酸/細胞骨格 | VII. 水晶体の混濁現象 実験的白内障/自然発症の白内障/ヒト白内障 |
| IV. 水晶体における代謝 エネルギー代謝/糖代謝/脂質代謝/タンパク質代謝/核酸代謝/トリプトファン代謝と蛍光物質/異物代謝 | VIII. 水晶体研究法 生化学的パラメーター測定のための水晶体分画法/細胞培養法/器官培養法/水晶体カプセルの透過性実験/光散乱実験法 |
| | 文献 (1,640の文献をアルファベット順に収載) |

眼科と眼をとりまく関連領域について、毎号特集形式で掲載！
写真・図表を豊富にして、わかりやすく、読みやすく解説！

月刊誌 あたらしい眼科

編集主幹 木下 茂 (京都府立医科大学教授)

■毎号の構成

- 特集：毎号特集テーマと編集者を定め、基本的事項と境界領域の解説記事を掲載
- 原著：眼科の未来を切り開く原著論文を医学・薬学・理学・工学部門など多方面から募って掲載。

また、「日本眼薬理学会」「日本角膜移植学会」「眼科ME学会」「日本眼感染症学会」の機関誌として、これら学会の原著論文を掲載

さらに、「日本白内障学会」「日本緑内障学会」の原著論文も掲載

- セミナー ●臨床・基礎の各種シリーズ ●時の人

- 新製品紹介 ●ブックレビュー

■体裁：A4判変型（Vol.1～10はB5判） 毎号約140頁 ■発行日：毎月30日

■定価：一部2,415円（税込／送料実費） 臨増 6,300円（税込／送料実費）

但し、Vol.1～4は一部1,995円、Vol.5～8は2,100円、Vol.9・10は2,205円（いずれも税込／送料実費）

■年間予約購読料：32,382円（税込／臨時増刊号を含む13冊／送料小社負担）

Vol.1 (1984) 特集
6月号：水晶体
7月号：角膜
8月号：結膜
9月号：緑内障
10月号：ぶどう膜炎
11月号：コンタクトレンズ*
12月号：小児眼科

Vol.2 (1985) 特集
1月号：薬物療法
2月号：労働眼科

3月号：斜視*
4月号：網膜
5月号：眼科手術
6月号：糖尿病性網膜症
7月号：眼科検査法
8月号：交通眼科*
9月号：硝子体
10月号：ソフトコンタクトレンズ
11月号：網膜疾患—新しい概念と考え方*
12月号：眼病理

*印は品切れ（2007年3月末現在）

Vol.3 (1986) 特 集

- 1月号：眼内レンズ
- 2月号：近視の治療
- 3月号：眼外傷
- 4月号：白内障
- 5月号：緑内障II
- 6月号：網膜剥離の治療
- 7月号：眼科における画像診断
- 8月号：眼腫瘍
- 9月号：眼精疲労
- 10月号：眼底検査の実際
- 11月号：眼免疫
- 12月号：視能矯正

Vol.5 (1988) 特 集

- 1月号：高血圧と眼
- 2月号：エイズとB型肝炎と眼
- 3月号：眼内レンズ
- 4月号：眼鏡処方
- 5月号：白内障の薬
- 6月号：眼と免疫組織化学
- 7月号：弱 視*
- 8月号：新しい白内障の手術
- 9月号：続発緑内障
- 10月号：網膜一凝固治療すべきか否か
- 11月号：眼病理
- 12月号：眼感染症

Vol.4 (1987) 特 集

- 1月号：角膜実質組織
- 2月号：結膜炎
- 3月号：コンタクトレンズ
- 4月号：神経眼科
- 5月号：眼生理
- 6月号：薬の使い方
- 7月号：屈折検査
- 8月号：眼遺伝
- 9月号：電気生理学的視覚機能検査
- 10月号：糖尿病と眼
- 11月号：小児眼疾患術後の長期予後
- 12月号：角 膜

Vol.6 (1989) 特 集

- 1月号：眼科器械と検査
- 2月号：黄斑部疾患
- 3月号：眼 窩
- 4月号：形成外科（基礎編）
- 5月号：病気の仕組み
- 6月号：コンタクトレンズによる
眼障害
- 7月号：網膜変性疾患*
- 8月号：新しい視能矯正
—感覚矯正学
- 9月号：薬の使い方と注意すべき点*
- 10月号：眼科における画像診断
- 11月号：角膜研究最近の知見
- 12月号：小児眼科疾患とその治療
- 別冊：緑内障の発見と管理についての
新しい展望

Vol.7 (1990) 特集

- 1月号：眼科とME
- 2月号：眼科手術の基本
- 3月号：結膜—最近の進歩と話題
- 4月号：硝子体手術の現況と将来
- 5月号：レーザー眼科*
- 6月号：屈折異常—最近の知見
- 7月号：眼鏡とコンタクトレンズ*
- 8月号：視覚障害者リハビリテーションの現況と将来
- 9月号：神経眼科
- 10月号：蛍光眼底造影*
- 11月号：前房隅角研究—最近の知見
- 12月号：網膜硝子体手術の功罪*
- 別冊：緑内障の発見と管理についての新しい展望

Vol.9 (1992) 特集

- 1月号：眼鏡処方箋に必要な最新の知識*
- 2月号：眼感染症—最近の話題
- 3月号：網膜剝離*
- 4月号：分子生物学
- 5月号：新しい薬
- 6月号：眼科手術とInformed Consent
- 7月号：眼不定愁訴
- 8月号：低視力 (Low Vision)*
- 9月号：原発開放隅角緑内障
- 10月号：角膜最近の検査法
- 11月号：コンタクトレンズUPDATE
- 12月号：最近の白内障手術
- 臨時増刊号：白内障手術 Q & A
- 別冊：緑内障の発見と管理についての新しい展望

Vol.8 (1991) 特集

- 1月号：眼窩腫瘍
- 2月号：VDT
- 3月号：白内障手術 Q & A*
- 4月号：低眼圧緑内障*
- 5月号：角膜移植の現況
- 6月号：内科医からみた糖尿病網膜症
- 7月号：ドライアイ*
- 8月号：ぶどう膜炎—最近の話題
- 9月号：眼病理—基底膜を中心として
- 10月号：小児眼科の診断と治療
- 11月号：コンタクトレンズ*
- 12月号：斜視

Vol.10 (1993) 特集

- 1月号：眼科薬物療法
- 2月号：眼科機器開発と臨床応用
- 3月号：3歳児健康診査*
- 4月号：ディスプレイザブルコンタクトレンズ
- 5月号：今日の抗微生物薬の使い方
- 6月号：角膜
- 7月号：神経眼科疾患の最近のトピックス
- 8月号：視力の評価
- 9月号：最近の緑内障手術
- 10月号：眼内レンズと水晶体上皮
- 11月号：眼とアレルギーUPDATE
- 12月号：網脈絡膜循環—最近の知見
- 臨時増刊号：結膜疾患 Q & A*

Vol.11 (1994) 特集

- 1月号：ぶどう膜炎
 2月号：屈折矯正手術とその将来
 3月号：自己閉鎖無縫合白内障手術
 4月号：多科領域と小児の眼
 5月号：眼とヘルペスウイルス
 6月号：ホワイトアイクリニックの
 検査
 7月号：視野の評価
 8月号：ドライアイUPDATE 94
 9月号：最近の網膜硝子体手術
 10月号：黄斑疾患—最近の知見
 11月号：眼球運動障害の最近のトピ
 ックス
 12月号：視能訓練士に必要な検査技術*
 臨時増刊号：緑内障 Q & A*
 別冊：緑内障の発見と管理についての
 新しい展望

Vol.13 (1996) 特集

- 1月号：眼感染症UPDATE
 2月号：視能訓練士に必要な検査技
 術II*
 3月号：オクラーサーフェスと皮膚
 4月号：最新のレーザー治療の基
 本手技
 5月号：網膜・硝子体病変—網膜
 脈絡膜循環
 6月号：最近増えている角結膜疾患
 とその治療*
 7月号：網膜変性
 8月号：アレルギー—最前線—眼ア
 レルギーへの応用—
 9月号：網膜・硝子体—三次元解析
 10月号：眼腫瘍の治療
 11月号：コミュニケーションにおけ
 る目の役割
 12月号：甲状腺眼症—その病態と治療*
 臨時増刊号：小児眼科 Q & A*

Vol.12 (1995) 特集

- 1月号：眼内血管新生の病理
 2月号：眼科診療最前線における
 分子生物学の挑戦
 3月号：斜視の常識と非常識*
 4月号：ビデオケラトスコープの使い方
 5月号：糖尿病網膜症に関する最新情報
 6月号：コンタクトレンズ臨床の実際*
 7月号：硝子体
 8月号：MRIの眼科臨床応用
 9月号：緑内障の薬物療法
 10月号：近視
 11月号：アイバンクと提供角膜
 12月号：症例に応じた眼内レンズ手術
 臨時増刊号：網膜・硝子体・ぶど
 う膜 Q & A

Vol.14 (1997) 特集

- 1月号：難症例へのコンタクトレン
 ズ処方*
 2月号：眼科診断技術の進歩
 3月号：スポーツと眼外傷
 4月号：私の白内障手術—手技における
 自分のコツ
 5月号：眼鏡処方*
 6月号：緑内障の検査—最近の進歩
 7月号：眼科の勉強法*
 8月号：眼と脳
 9月号：眼精疲労*
 10月号：眼分子遺伝学—眼疾患の原
 因遺伝子はどこまで解明されたか
 11月号：涙液の見方・考え方*
 12月号：眼光学と手術
 臨時増刊号：屈折矯正 Q & A

Vol.15 (1998) 特集

- 1月号：眼科で使える便利なコンピュータソフト
 2月号：網膜・脈絡膜循環
 3月号：コンタクトレンズ—新しい時代に向けて
 4月号：緑内障の薬物療法
 5月号：フリーラジカルと眼
 6月号：コメディカルの教育を考える
 7月号：特殊状況における水晶体核の攻略
 8月号：眼ウイルス感染症—最近の動向
 9月号：眼内レンズ挿入術後眼内炎
 10月号：角膜内皮を見直す
 11月号：ORTのための小児眼科
 12月号：白内障術前検査を再評価する
 臨時増刊号：全身疾患と眼 Q & A

Vol.16 (1999) 特集

- 1月号：ここまで治る網膜疾患
 2月号：ここまで治るオキュラーサーフェス
 3月号：コンタクトレンズと医療経済
 4月号：アレルギー性結膜疾患—現状と今後の課題
 5月号：眼精疲労と屈折・調節異常
 6月号：ぶどう膜炎の診断と治療—最近の進歩
 7月号：Quality of Vision—緑内障
 8月号：角膜屈折矯正手術
 9月号：白内障手術の再評価
 10月号：網膜・硝子体の手術
 11月号：ドライアイと Sjogren 症候群
 12月号：小児眼科
 臨時増刊号：緑内障 Q & A—Part II *

Vol.17 (2000) 特集

- 1月号：薬物中毒と眼科
 2月号：難治性細菌感染症
 3月号：眼科診療とサービス
 4月号：楽チン眼病理のすすめ—眼科医と病理医の連携をめぐして—
 5月号：黄斑浮腫の診断と治療の進歩
 6月号：21世紀の眼科—私はこう思う
 7月号：コンタクトレンズの基礎知識
 8月号：Quality of Vision—角膜～網膜—
 9月号：眼アレルギー
 10月号：眼科の診療薬—薬の副作用
 11月号：LASIKのすべて
 12月号：アトピー性白内障と網膜剥離
 臨時増刊号：眼感染症 Q & A *

Vol.18 (2001) 特集

- 1月号：眼科領域の新しいドラッグデリバリーシステム
 2月号：視覚障害—ハビリテーション/リハビリテーション
 3月号：マイボーム腺のすべて
 4月号：バイフォーカルコンタクトレンズ
 5月号：糖尿病網膜症UPDATE
 6月号：眼科医療の安全管理
 7月号：加齢黄斑変性の新しい治療法
 8月号：緑内障手術—What's on the Horizon?
 9月号：斜視—基礎と最近の進歩
 10月号：老視への対処法
 11月号：不正乱視の評価と治療
 12月号：未熟児網膜症
 臨時増刊号：屈折矯正手術 Q & A *

Vol.19 (2002) 特集

- 1月号：インターネットが眼科医療
を変える
- 2月号：眼鏡処方新しい考え方
- 3月号：白内障手術と眼内レンズの
最新トピックス
- 4月号：特殊コンタクトレンズ処方
の方法と注意点
- 5月号：眼腫瘍UPDATE—外来で困
らないために—
- 6月号：網膜内境界膜手術
- 7月号：加齢と抗加齢
- 8月号：角膜感染症への対処法
- 9月号：近視の現在形
- 10月号：小児神経眼科
- 11月号：緑内障治療における究極の
選択Q&A
- 12月号：斜視治療のABC
- 臨時増刊号：網膜・硝子体 Q & A

Vol.20 (2003) 特集

- 1月号：ドライアイ & アレルギー
知識のリフレッシュ
- 2月号：初心者のためのレーザーの
使い方
- 3月号：眼とウイルス感染症
- 4月号：屈折矯正の新しい流れ
- 5月号：眼内レンズの最新情報と問
題点
- 6月号：次世代の眼科医へのメッセージ
- 7月号：糖尿病網膜症のトピックス
- 8月号：視神経疾患の新しい診方、
考え方
- 9月号：眼科薬物治療—Trends of
2003
- 10月号：正常眼圧緑内障を徹底解
剖する
- 11月号：加齢黄斑変性の考え方と治療
- 12月号：最新眼形成外科学
- 臨時増刊号：コンタクトレンズと眼鏡
Q & A

Vol.21 (2004) 特集

- 1月号：ぶどう膜炎の外科治療
UPDATE
- 2月号：新しい角膜移植
- 3月号：わかる！ 使える！ 最新
の眼科診断機器
- 4月号：わかる糖尿病網膜症のEBM
- 5月号：白内障手術の新しい流れ
- 6月号：コンタクトレンズの現状と将来
- 7月号：電子カルテ化と眼科診療
- 8月号：黄斑疾患に対するトリウム
シノロン局所治療
- 9月号：斜視—常識への挑戦
- 10月号：光線力学的療法
- 11月号：眼鏡—最近の進歩
- 12月号：眼窩壁骨折の診療はいま
- 臨時増刊号：神経眼科Q & A

Vol.22 (2005) 特集

- 1月号：網膜静脈分枝閉塞症・網膜中
心静脈閉塞症の新しい展開
- 2月号：臨床眼科医のためのLASIK講
座
- 3月号：ドライアイ—眼の乾きのメカ
ニズムに迫る
- 4月号：眼科医のためのアンチエイジ
ング医学
- 5月号：黄斑部疾患を見直そう
- 6月号：アレルギー性結膜疾患 診療方
針2005
- 7月号：白内障術後眼内炎アップデート
2005
- 8月号：老視に対する新しいアプローチ
- 9月号：閉塞隅角緑内障：診断と治療
のアップデート
- 10月号：コンタクトレンズの新しい潮流
- 11月号：眼科小手術のエッセンス
- 12月号：最新レーザー治療機器バイ
ーガイド
- 臨時増刊号：眼科のリスクマネージメン
トQ & A
- 別巻：緑内障—新しい診かた・考え方

Vol.13 (2006) 特集

- 1月号：小児眼科の新しい考え方
 - 2月号：眼内レンズの適応を再考証する
 - 3月号：基本的な角膜上皮疾患の考え方と治療方法
 - 4月号：白内障手術アップデート2006
 - 5月号：視神経疾患と乳頭所見—異常所見の鑑別法
 - 6月号：もっと知りたい、斜視・弱視
 - 7月号：新しいコンタクトレンズの展望
 - 8月号：隅角のすべて
 - 9月号：網脈路膜変性疾患のアップデート
 - 10月号：眼科におけるアンチエイジング医学の流れ
 - 11月号：非感染性ぶどう膜炎治療の最先端
 - 12月号：組織適合抗原(HLA)のすべて
- 臨時増刊号：角膜疾患Q&A
- 別巻：トシル酸トスフロキサシン点眼液

Vol.24 (2007) 特集

- 1月号：最新の網膜硝子体検査
- 2月号：バイフォーカル眼内レンズ
- 3月号：加齢黄斑変性の薬物治療
- 4月号：前眼部四次元検査（前眼部キネティックアナリシス）

眼科手術

[日本眼科手術学会誌]

■体裁：A4判変型（Vol.1～6はB5判） 毎号約140頁

■発行日：1月・4月・7月・10月の各20日（季刊）

■定価：一部2,520円（税込／送料実費）

但し、Vol.1～4は一部2,100円（税込／送料実費）

■年間予約購読料：10,080円（税込／送料小社負担）

Vol.1 (1988) 特集

No.1：眼内レンズ挿入術*

(1) 基本手技

No.2：角膜手術*

(1) 移植の基本手技

No.3：網膜・硝子体手術*

(1) 網膜復位術の基本手技

Vol.3 (1990) 特集

No.1：眼外傷*

(1) 一次的整復

No.2：眼内レンズ*

(3) 移植術の適応の拡大

No.3：網膜・硝子体手術

(2) 硝子体手術の基本手技

No.4：眼科手術における生体材料

Vol.2 (1989) 特集

No.1：緑内障手術*

(1) 基本手技

No.2：眼内レンズ

(2) 術中・術後の合併症

No.3：眼瞼、眼筋、付属器*

(1) 基本手技

No.4：レーザー治療と診断*

Vol.4 (1991) 特集

No.1：眼外傷

(2) 二次的整復

No.2：眼内レンズ

(4) 水晶体乳化吸引術と最近の進歩

No.3：手術侵襲とその評価法

No.4：網膜・硝子体手術

(3) 手技の選択

*印は品切れ（2007年3月末現在）

Vol.5 (1992) 特集

- No.1: 角膜
(2) 角膜屈折矯正術
- No.2: 眼内レンズ
(5) 術後視機能の異常と評価
- No.3: 緑内障手術
(2) 最近の治療法
- No.4: 網膜・硝子体手術
(4) 最近における増殖性硝子体網膜症の治療

Vol.6 (1993) 特集

- No.1: 眼内レンズ
(6) 切開と縫合
- No.2: 網膜・硝子体手術
(5) Soft Instruments
- No.3: 涙器・涙道の手術
—私の選択, 私の工夫*
- No.4: 小児における眼科手術*

Vol.7 (1994) 特集

- No.1: 眼内レンズ
(7) 新しい眼内レンズの評価
- No.2: 眼窩手術
—わが国における現状*
- No.3: 黄斑部手術
- No.4: 糖尿病と内眼手術

Vol.8 (1995) 特集

- No.1: エキシマレーザ屈折手術の現状
- No.2: 眼内レンズ*
—特殊症例への対策
- No.3: 緑内障手術*
—難治性緑内障
- No.4: 眼瞼の手術—合併症, 再発
に対する処置と考え方*

Vol.9 (1996) 特集

- No.1: 内視鏡手術*
- No.2: 同時手術—その長期成績*
- No.3: 屈折矯正手術の現況
- No.4: 斜視手術の実際*

Vol.10 (1997) 特集

- No.1: 眼内手術とぶどう膜合併症
- No.2: 白内障手術の手術評価と合併症対策
- No.3: 緑内障手術の手術評価と術後管理
- No.4: 角膜屈折矯正手術
UPDATE

Vol.11 (1998) 特集

- No.1: 眼窩の形成外科手術
- No.2: 眼科手術と術後眼内炎
- No.3: 糖尿病網膜症
- No.4: 角膜移植の進歩

Vol.14 (2001) 特集

- No.1: 斜視手術—適応と定量*
- No.2: 眼内レンズ挿入眼の視機能
- No.3: 緑内障の新しい手術
- No.4: LASIKの現状

Vol.12 (1999) 特集

- No.1: 緑内障代謝拮抗薬
—光と陰—
- No.2: ソフトレンズ
- No.3: 裂孔原性網膜剥離—硝子体
手術vs.強膜バックリング—
- No.4: アイバンクが変わる

Vol.15 (2002) 特集

- No.1: 眼表面の再生医学と羊膜移植
- No.2: 眼科手術と医療科学
(EBM/倫理/ICなど)
- No.3: 新しいFoldable IOL
- No.4: 血管新生緑内障

Vol.13 (2000) 特集

- No.1: 白内障・IOL—特殊症例の
長期観察
- No.2: 眼科手術関連薬剤および
生体材料の進歩
- No.3: 黄斑手術—その成績と評価
- No.4: レーザー屈折矯正手術
—適応と実際—

Vol.16 (2003) 特集

- No.1: 網膜静脈閉塞症の治療
- No.2: 手術補助剤
- No.3: 角膜移植
- No.4: 白内障手術とQuality of
Vision

Vol.17 (2004) 特集

- No.1：緑内障手術の限界
No.2：ぶどう膜炎の合併症に対する手術療法
No.3：黄斑浮腫に対する最新のアプローチ
No.4：斜視手術の基礎と応用

Vol.20 (2007) 特集

- No.1：低侵襲眼手術—Minimally Invasive Eye Surgery—
No.2：最新の角膜移植

Vol.18 (2005) 特集

- No.1：結膜手術スキルアップ
No.2：術後感染症を起こさないために
No.3：加齢黄斑変性に対する新しいレーザー治療の現況
No.4：白内障手術
—一切開創2mmの時代—

Vol.19 (2006) 特集

- No.1：眼窩疾患の診断と治療アップデート
No.2：屈折矯正手術
—術式選択の時代—
No.3：続発緑内障の病態と治療
No.4：網膜剝離に対する硝子体手術

書

籍

(眼科を除く)

本体価格のみ表示 (税は別).

【目次】	(眼科以外の書籍)	
肩のリハビリテーション		46
臨床PNF—統合的運動療法の実際—		47
スポーツ選手のためのウォームアップ・プログラム		48
スポーツ トレーニング		
—選手を育てるためのトレーニング計画—		49
クライオセラピー		
—理論, テクニック, 生理学—		50
手術学入門—各科における手術手技の基本—		51
図説 呼吸理学療法—急性期管理から		
リハビリテーションまで—		52
心臓リハビリテーション		
—運動療法の基礎と臨床—		53
小児の骨折		54
実践臨床内科シリーズ [1~8]		55

リハビリテーションに携わる臨床医や学生に、複雑な肩および肩周辺の治療を主体に、全面的に解説!

肩のリハビリテーション

Physical Therapy of the Shoulder (2nd ed)

Robert A. Donatelli <編>

昭和大学医学部教授 山本龍二 更埴中央病院整形外科 吉松俊一 <監訳>
山梨医科大学教授 赤松功也 山梨医科大学助教授 浜田良機

◆ 内 容 目 次 ◆

1 肩の解剖とバイオメカニクス

解剖/バイオメカニクス

2 肩の評価：段階的方法

病歴の聴取/潜行性の発症/競技者の肩関節の問題/労働者における overuse の問題/肩関節痛と睡眠中の姿勢/外傷による肩関節痛の発症/患者の疼痛分布図と視覚的(疼痛)表示表/身体上1/4疾患鑑別表/自動運動/他動運動/特殊検査/触診

3 肩の等速性運動の科学的評価と治療

等速性運動の実際の有用性/対角線運動による肩関節の評価/テスト方法/等速性運動試験のパラメーターの説明/治療の条件/一般的試験と準備運動に対する考察

4 姿勢と身体上部 1/4

姿勢/異常姿勢

5 Frozen shoulder (五十肩) の治療

文献的考察/評価/治療方法

6 片麻痺の肩

正常肩甲帯の機構/異常な生体力学/筋骨格の考察/治療計画

7 胸郭出口症候群の評価と治療

臨床症状/病因論/TIS に対する特殊なテスト/TIS の保存療法/TIS の患者に対する理学療法の評価/TIS の患者に対する理学療法

8 腕神経叢損傷の評価と分類

腕神経叢の解剖/腕神経叢損傷の分類/神経に対する損傷の病因論的機構/損傷の病態生理/評価の明確化/現病歴/リハビリテーションの最終目標と治療/症例検討

9 代表的肩関節障害の最近の研究

肩関節障害/習慣性脱臼/初回脱臼時の治療/肩関節の外科的治療と結果

10 肩の投球障害

投球のメカニズム/投球障害のメカニズム/検査/一般的な肩の障害/外科療法/保存療法/予防/付録 1 肩運動療法プログラム/付録 2 インターバルスローイングプログラム

11 肩の mobilization

定義/Mobilization の役割/他動運動の効果/癒痕組織への他動運動の効果—mobilization の適応と禁忌/Mobilization techniques の原則/持続および振幅/肩甲上腕関節への手技/胸鎖関節および肩鎖関節への手技

12 肩の筋性機能障害の管理

性状とメカニズム/臨床所見/持続因子/線維組織炎・線維性筋痛症/理学療法/肩甲帯部筋群

13 筋性疼痛、機能不全の治療

外因性患者/内因性患者/発痛点 (trigger point) への局注

14 肩甲帯骨折

骨折治癒過程の段階/固定の軟部組織への影響/鎖骨骨折/肩甲骨骨折/上腕骨骨折

15 全人工肩関節置換術

全人工肩関節を必要とする診断的種類/患者の概要/手術における配慮/術後療法

16 肩の鏡視下手術

適応/手術手技/解剖/手術方法/後療法

付 Overuse dysfunction におけるバイオメカニカルの要因

バイオメカニカルの要因/バイオメカニカルの機能障害の評価/バイオメカニカルの機能障害の処置

体裁：B5判 総272頁 図表・写真 195点

本体価格：7,000円

運動療法の体系を構成している諸要素の理解と評価を深め、PNFの臨床的研究の最新内容を解説！

An Integrated Approach to Therapeutic Exercise

Patricia E. Sullivan, Prudence D. Markos, Mary Alice D. Minor 著

Reston Publishing Company 刊

臨床PNF——統合的運動療法の実際

石川友衛・吉松俊一〈監訳〉

高橋 護・柳澤 健・藤原孝之・溝呂木絢子 〈訳者〉

溝呂木忠・高橋輝雄・魚住廣信・市川重之

運動療法は、理学療法の重要な一分野として発展してきた。研究方法や科学技術の改良の重要性がだいに強調されるようになり、その結果、運動療法は経験にもとづいた技術 (art) から、発展を続ける科学的基盤を有する手順 (procedures) へと変化した。多くの人々が、この変化を促進し、助け、そして原動力となった。

われわれの関心は、新しい治療体系を創始することではなくて、むしろ諸家の治療法を借用し、ミックスして、運動療法の統合的アプローチを発展させることにある。本書の構成は、最初の数章で治療計画設定過程、および治療法の根底をなす原理があきらかになるようになっていく。本書で述べている治療法を支持する理論的根拠は、われわれの現在の知識体系にもとづいたものである。われわれは将来の研究が、現在受け入れられている概念のうちのいくつかを確認し、その他の概念の再検討を促すであろうと考えている。新しい情報は、それがわれわれの治療方法のよりよい理解、そしてその結果として、より質の高い患者の管理に通じる場合においてのみ、喜んで受け入れるものである。

後半の章では、整形外科的および神経学的障害がある患者の治療訓練について述べている。治療全体を規定する知識の説明は、第1部で行っている。われわれの意図は、各疾患についての定型的治療プログラムを確立することではなく、むしろ治療プログラム設定でセラピストの手助けをすることである。(序より)

〈 内 容 目 次 〉

1章 治療計画の過程	1. 立位に近い高遠い位	固有受容性促進要素
2章 正常運動発達	2. 起立と歩行	伸 張
運動の頭-尾、近位-遠位方向への発達	四肢パターン	抵 抗
自律的恒常性の発達	一側性パターン	バイブレーション
反射優位から反射統合へ	両側性パターン	関節圧縮
運動コントロールの諸段階	体幹パターン	関節牽引
1. 運動性	4章 促通手技	角速度と直線加速度
2. 安定性	多目的テクニック	寝返り
3. コントロールされた運動性	スローリバーサルとスローリバー	外受容性促進要素
4. 巧緻性	サル・ホールド	軽い接触
姿勢と動作の連続性	反復収縮	ブラッシング
I部 促通の手順	強調のタイミング	発汗の減少
3章 促通動作	主動筋による逆運動	温 度
訓練手順の選択と運動発達に影響する諸因子	運動コントロールを促進するためのテクニックの適用	脊柱の両側側面にそったゆっくりしたストローク
発達段階にそった促通動作	運動性	固有受容性と外受容性促進要素の組合せ用手接触
初期の直立姿勢への運動発達	リズムック・イニシエーション	長隣に対する圧迫
1. 側臥位と寝返り	ホールド・リラックス自動運動	遠隔受容性促進要素
2. 坐 位	ホールド・リラックス	内受容性促進要素
腹臥位での運動発達過程	コントラクト・リラックス	6章 実施にあたって
1. 腹臥位そり返り肢位	リズムック・スタビリゼーション	7章 臨床応用
2. 腹臥位両肘支持位	リズムカル・ローテーション	II部 中枢神経疾患の治療
3. 四つ這い位	肢位維持の介助	8章 片麻痺
下部体幹の運動発達過程	安定性	9章 脊髄損傷
1. 下部体幹の回旋	コントロールされた運動性	III部 整形外科疾患の治療
2. ブリッジング	巧緻性	10章 肩
3. 膝立ち位	抵抗運動	11章 膝
4. 片膝立ち位	正常なタイミング	12章 腰 部
立位姿勢への運動発達過程	5. 促進要素	

B5判 総頁376ページ 本文コート紙 写真・図・表405点

本体価格：7,000円

柔軟性、ウォームアップとウォームダウン、リハビリテーションの実際的な
手引書！ あらゆるスポーツ選手や指導者の座右の書！

スポーツ選手 のための ウォームアップ・プログラム

大阪体育大学講師 魚住廣信 著
大阪市身体障害者スポーツセンター

《推薦》 (推薦全文は、本書に掲載)

三笠宮 寛仁親王殿下

市川 宣 恭 (大阪体育大学体育学部・スポーツ医学研究室教授
日本体育協会公認スポーツ・ドクター)

尾山 末雄 (東京読売巨人軍・トレーナー)

山本 晴 三 (阪神タイガース・トレーニングコーチ)

◆推薦のことば◆

大阪体育大学体育学部・スポーツ医学研究室教授
日本体育協会公認スポーツ・ドクター

市川 宣 恭

スポーツは今や、老若男女のあらゆる階層に普及した身体活動の手段となっている。それは選手スポーツ、レジャースポーツ、学校体育などと区別され、目的を異にしている。そして、その目標に応じた身体活動が実践されているが、ともすれば画一的となったり、実技の修得優先となったりして、身体要因の調整を無視したスポーツ活動が行われがちである。結果として、スポーツ外傷・障害が惹起され、スポーツ活動が挫折せざるをえないようになる。

その点、今回、魚住廣信氏が出された本書は図も多く、論旨が明快にして当を得た実際的な内容で充実しているように思う。ことに、PNFストレッチングやクライオセラピーは比較的新しい有効なコンディショニングの手段であり、その理論と実際を結びつけた内容はスポーツ選手や指導者に有用なものとなろう。

内 容 目 次

I. ウォームアップ

1. ウォームアップのタイプ
2. ウォームアップの要点
3. ウォームアップと柔軟性
4. ウォームアップのプログラム

II. 柔軟性の意義

1. 主働筋と拮抗筋
2. 筋肉と柔軟性
3. 白筋と赤筋

III. PNFストレッチング

1. 柔軟性の不足
2. 柔軟性の生理
3. PNFストレッチング
4. PNFストレッチングの神経生理
5. PNFストレッチングのテクニック
6. PNFストレッチングのタイプ
7. PNFストレッチングの有利性

8. PNFストレッチングの欠点
9. PNFストレッチングの実際

IV. 柔軟性のテスト

1. 部分的な柔軟性のテスト
2. 全身的な柔軟性のテスト

V. スローイング・ショルダーのテスト

- A. 肩の回旋のテスト
- B. 棘上筋のテスト
- C. impingementのテスト
- D. 肩前部の安定性のテスト
- E. 小円筋のテスト
- F. 肩の内旋のテスト
- G. 肩甲骨の動きのテスト
- H. 肩の内旋と外旋のテスト
- I. 肩の水平内転のテスト
- J. 前方亜脱臼のテスト
- K. 肩後部の不安定性のテスト
- L. 上腕関節窩前縁の損傷のテスト

M. 上腕二頭筋腱のテスト

N. 肩関節前部筋のテスト

O. ローテーター・カフ後部筋のテスト

P. 上腕関節の内旋と外旋のテスト

VI. クライオセラピー

1. ICE処置とクライオセラピー
2. クライオキネティック
3. クライオストレッチ

VII. リハビリテーション・プログラム

1. 足首の強化プログラム
2. 膝の強化プログラム
3. ハムストリングスの強化プログラム
4. 腰の強化プログラム
5. 肩の強化プログラム
6. 首の強化プログラム

B5判 総140頁 写真・図321点

本体価格：3,000円

ジュニアから社会人に至るまでの年齢による特性を踏まえた、
合理的トレーニングの科学的解明と具体案！ コーチ、選手必携の書！

スポーツ トレーニング

——選手を育てるためのトレーニング計画——

大阪体育大学講師

大阪市身体障害者スポーツセンター

魚住 廣信 訳

Tudor O. Bompa 著

Kendall/Hunt 刊

世界のスポーツ界は、とどまるところを知らずして、記録の上昇をたどっている。それに反して、わが国のスポーツ界を振り返れば、まるで後退しているようにさえ思われる。世界との差は何に原因があるのか。

科学的トレーニングに誤解があるのではないだろうか。人間の生理学的な面での研究で、わが国が遅れているとは考えられない。しかし、実験室とトレーニングの現場があまりにもかけ離れすぎていて、その結果、指導者がいまだに数十年も前のトレーニングを自分の経験を通して指導している。

小学生から成人まで、一貫したトレーニング計画（長期計画）がみられず、小学校、中学校、高校と、それぞれの段階でハードに専門化されていることから、いちばん活躍が期待される大学、社会人の時期に、ベストパフォーマンスが達成されないのである。

本書はソ連および東欧圏のものを中心であるが、内容のすばらしさ、とくにトレーニング計画、Biomotor Abilitiesの開発方法など、どれをとってみても訳者が探し求めていたものであり、実践していたものであった。

本書のトレーニング理論と実践に関する知識を、わが国の指導者が正しく理解することで、優秀な素材を早期に燃え尽きさせることなく、近い将来、わが国のスポーツ界を世界に追いつかせ、そして科学的トレーニングの実現をみることができるだろう。（訳者序より）

内 容 目 次

<p>1. トレーニングの範囲、目的、システム</p> <p>A. トレーニングとは</p> <p>B. トレーニングの範囲</p> <p>C. トレーニングの目的</p> <p>D. エクササイズとスキルの分類</p> <p>E. トレーニングの適応とディトレーニング</p> <p>F. トレーニングシステム</p> <p>G. エネルギー源</p>	<p>C. 戦術的準備</p> <p>D. 理論的準備</p>	<p>D. 回復の調整方法</p>
<p>2. トレーニングの原則</p> <p>A. 積極性・意識性の原則</p> <p>B. 全面性の原則</p> <p>C. 専門性の原則</p> <p>D. 個別性の原則</p> <p>E. 多様性の原則</p> <p>F. モデル化の原則</p> <p>G. 漸増負荷性の原則</p>	<p>4. トレーニングの構成要素</p> <p>A. トレーニングの量</p> <p>B. トレーニングの強度</p> <p>C. トレーニングの密度</p> <p>D. トレーニングの複雑さ</p>	<p>7. トレーニング計画の理論</p> <p>A. トレーニング計画の重要性とその規則</p> <p>B. 計画における一般的必要条件</p> <p>C. トレーニングに使う計画のタイプ</p> <p>D. 記録の方法と書式</p>
<p>3. トレーニングの要因</p> <p>A. 身体的準備</p> <p>B. テクニカルな準備</p>	<p>5. トレーニングの状態</p> <p>A. ビーキング</p> <p>B. ビーキングを促進する要因</p> <p>C. ビーキングの確認方法</p> <p>D. ビーキングの維持期間</p> <p>E. ビーキングに逆効果をもたらす要因</p> <p>F. オーバートレーニング</p>	<p>8. アスレティック競技</p> <p>A. 競技の分類と特性</p> <p>B. 競技のフランチング</p> <p>C. 競技の回数と頻度</p>
	<p>6. トレーニングと競技後の有機体の回復</p> <p>A. 回復プロセスの理論的考察</p> <p>B. 回復の意図と方法</p> <p>C. 永続的な回復方法</p>	<p>9. biomotor abilities とその開発方法</p> <p>A. biomotor abilities——一般的な面</p> <p>B. 筋力トレーニング</p> <p>C. 持久力のトレーニング</p> <p>D. スピードトレーニング</p> <p>E. 柔軟性のトレーニング</p> <p>F. 調整力のトレーニング</p>

B 5 判 総428頁 図表154点 本体価格：6,000円

クライオセラピーの生理学・病態生理学およびテクニックの
理論と臨床的应用について詳解!

クライオセラピー

—— 理論、テクニック、生理学 ——

大阪体育大学講師
大阪市身体障害者スポーツセンター

魚住 廣信 訳

Kenneth L. Knight 著
Chattanooga Corporation 刊

クライオセラピーということばは決して新しいものではなく、以前から寒冷療法や冷却療法として用いられているものである。とくにわが国では、リウマチ患者に対して冷却、運動という、いわゆるクライオキネティックスとよばれる方法が用いられている。そしてスポーツ選手への応用としては、スポーツ外傷・障害のファーストエイドとして、冷やすということが用いられていた。それが最近では、使いすぎによる障害の予防策として、またリハビリテーションのなかで回復を促進させるテクニックとしてこのクライオセラピーが大いに用いられるようになってきた。本書はスポーツ外傷・障害への応用ということだけでなく、クライオセラピーの本質を探るものであり、クライオセラピーにかかわるあらゆる情報を集積したものである。本書の適切な理解により、スポーツ外傷・障害の処置だけでなく、クライオキネティックスやクライオストレッチの活用により、リハビリテーションの促進に役立てられることを願うものである。

(訳者序より)

〈内 容 目 次〉

I. クライオセラピーの生理学と臨床テクニック

- A. 理論とテクニック — 生理学の効果
- B. クライオセラピーの目的 — クライオセラピー テクニックのゴール

II. 冷却の臨床的適用の背景と理論

- A. 急性外傷の応急処置としての ICE — なぜ冷却を使うのか? / 冷却によって何が起るのか? / 腫れに対する冷却効果 / 冷却方法
- B. 手術前後のクライオセラピー — 手術後のクライオセラピー / 手術前のクライオセラピー
- C. 問題、用心、禁忌事項 — 禁忌 / 用心 / 凍瘡 / 凍瘡のメカニズム / 凍瘡発生の温度 / 永続しない冷却のダメージ / 神経麻痺 / 寒冷過敏症 / 血管痙攣性の障害

III. クライオセラピーを含む臨床テクニック

- A. 冷却のテクニック — アイスバック / コールド / ゲルバック / 化学作用のコールドバック / アイスイマージョン / コールド / ワールプール / アイスマッサージ / 蒸気冷却剤スプレー / クライオマチック
- B. 応急処置としての冷却、圧迫、高举
- C. 捻挫のリハビリテーションに用いるクライオキネティックス — 患者の感覚麻痺 / 段階的なエクササイズ
- D. 急性の筋痙攣に対するクライオストレッチ テクニック — 冷却 / 神経筋組織のトレーニング / ストレッチング / クライオストレッチとクライオキネティックスの組合せ
- E. クライオセラピューティック テクニック — 結

合組織のストレッチング / 月経性痙攣の軽減 / 冷却による痛みの制限 / ドクタラピン化学療法中の脱毛の予防 / 鎮痛剤の投与 / 筋膜の誘発点による治療

IV. クライオセラピーの生理学的基礎

- A. 冷却による温度変化 — 表面温度測定の違い / 表面温度 / 深部組織の温度 / 関節内温度 / 冷却後のリウォーミング / 対側の四肢 / 環境
- B. セラピューティックな冷却に対する血液循環の効果 — クライオセラピーの血液循環の反応 / 冷却による血管拡張 / 冷却のジレンマ / リハビリテーションにおける冷却の使用 / C I V D の立証 / C I V D
- C. 冷却の神経および神経筋への影響 — 知覚神経線維の伝達に対する冷却の影響 / 神経筋パラメーターの冷却の影響 / 反射に対する冷却の影響
- D. クライオセラピーの痛みとその軽減 — 寒冷無痛覚 / 冷却による痛みの誘発 / 冷却が誘発した痛みの適合 / 他の冷却の適合 / 冷却による痛みの軽減 / エチル塩化物スプレーによる痛みの軽減 / 冷却による痛みの軽減
- E. 筋痙攣の緩和と結合組織の硬結 — 臨床的研究 / 実験的研究 / 痙攣減少のメカニズム / 組織と関節の硬直
- F. 新陳代謝と炎症 — 新陳代謝の減少 / 神経と心臓手術のクライオセラピー / 誘発した障害の研究 / クライオセラピーと炎症 / 創傷の治療 / 二次的障害

A 5 判 総240頁 図表・写真66点

本体価格：4,600円

外科をはじめとする各科の手術手技を科学として記載した実践の書!

手術学入門

—各科における手術手技の基本—

〈編集〉 前東京大学第一外科教授 前昭和大学教授・付属豊洲病院院長 大隅産産病院名誉院長 **草間 悟**

〈編集幹事〉 東京大学医学部泌尿器科教授 (五十音順)

太田西ノ内病院院長
東京大学名誉教授

東京大学医学部整形外科教授

防衛医科大学第一外科教授

阿曾 佳郎

稲田 豊

黒川 高秀

玉熊 正悦

東京大学医学部耳鼻咽喉科教授 **野村 恭也**

東京大学医学部形成外科教授 **波利井清紀**

東京大学医学部産婦人科教授 **水野 正彦**

東京大学医学部第一外科教授 **森岡 恭彦**

本書は手術の細部、すなわち、手術手技を基礎的に、細かく取り上げて論じ、従来、術として軽視されていた手技を科学的に記載することによって、手術学が科学として重要視され討議され、これにより手術手技の向上がもたらされることを期待し発刊されるものである。執筆にあたって気づいたことは、手術手技を詳細に記載することを試みるとき、適切な用語がなく、また従来用いられている用語の定義が不正確あるいは曖昧のものが多いことである。従来手術は術としての性格が強く、教室ごとにいるような形で受け継がれ、言葉で表現され難いものを含んでいる。この壁を破り、他の科でどのような手術手技が行われているかを知ることによって、自己の手術を科学的に考え、見直すことができるようにとの考えのもとに、本書は構成されている。

総論として、外科、形成外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、婦人科の各科の手術手技に加えて、外科医が自ら行う必要のある局所麻酔の項が特にもうけられている。総論においては、手術器械を中心にして各科の手術手技が、図解を含めて詳細に記述されているが、個々の手術器械の使い方が各科ごとに記載されているため、一見、多くの重複があるように思われる。しかし、ここに本書の特徴があることを強調したい。他の科でどのような手術が行われているかを知り、視野を広げることにより、よい手術が学べるものと思われる。とくに、皮膚切開はいずれの科においても必要な手技であるが、形成外科の手術に学ぶものが多いと思われる。

本書は手術学入門書として、とくに若い手術者にとって重要と思われる小手術を各論として取り上げ、手術の基本を示している。まず、外科医の心得るべき救急小手術を列挙し、ついで各論的に各科の小手術を取り上げている。自分自身の手で行うことのない手術についても、手術手技の基本を学ぶつもりで、他科の手術の項にも眼を通すことは決して無駄ではないと思われる。(序より)

◆ 内 容 目 次 ◆

I. 手術学総論

I. 基本的手術手技

- 切り離すこと
- 術中の止血
- 縫合と吻合
- 糸結び

II. 新しい皮膚切開と縫合 (形成外科的皮膚縫合)

- 皮膚の切開と止血
- 皮膚縫合
- 真皮縫合法

III. 整形外科における基本的手術手技 手術器械と手術手技

IV. 泌尿器科における基本的手術手技

- 基本的手術手技
- 手術器械と手術手技
- 手術野の減菌と消毒剤
- 手術前後の処置

V. 耳鼻咽喉科における基本的手術手技

- 手術器械と手術手技
- 手術野の減菌と消毒剤
- 手術後の処置

VI. 婦人科における基本的手術手技

- 手術器械と手術手技
- 手術野の減菌と消毒
- 手術前後の処置

VII. 形成外科における基本的手術手技

- 皮膚縫合などに必要な器具と手技
- 植皮術に必要な器械と手技
- 手術野の減菌と消毒剤
- 手術前後の処置

【局所麻酔学】

- 準備
- 術中管理
- 局所麻酔薬
- 局所浸潤麻酔法
- 神経ブロック
- 経静脈局所麻酔法

【手術学各論】

I. 救急手術

- 開放性損傷の処置
- 静脈内挿管
- 皮下に刺れる血管の手術
- 気管切開
- 導尿・膀胱穿刺
- 顔面外傷の形成外科的処置
- 切断指趾の治療
- 嵌頓ヘルニア

II. 部位別小手術各論

- 皮膚および皮下の良性腫瘍の摘除、生検

B. 皮下異物の除去

- 乳腺腫瘍、リンパ節の摘除、生検
- 皮下膿瘍の切開、排膿
- 関節穿刺
- 牽引
- 手指新鮮外傷の治療

H. バネ指の手術(母指)

- ガングリオン
- 除瘤術・副睾丸摘除術
- 睾丸水瘤根治術
- 精索靜脈瘤
- 耳鼻咽喉科の手術
- 鼓膜切開術、鼓膜チューブ留置術
- 鼻茸切除術
- 鼻中隔矯正術
- 扁桃摘出術
- Shirodkar手術(頭蓋縫縮術)
- バルトリン腺腫核出術
- 子宮頸部円錐切除術
- 会陰形成術(陳旧性会陰裂傷後)
- 中央陰門鎖術
- 処女膜切開術
- 子宮内容除去術
- ダグラス窩穿刺

B5判 総244頁 写真144点 図256点 表10点 本体価格：6,000円

図説 呼吸理学療法

急性期管理からリハビリテーションまで

国立療養所東京病院院長 芳賀 敏彦

緑成会病院・緑成会整育園
リハビリテーション部・課長

溝呂木 忠 <編集>

わが国に理学療法士が誕生して20年になるが、“呼吸理学療法”は理学療法士にとって相変わらずなじみが薄い。昔からその重要性が強調されながら、これほどに一般化しない治療分野も珍しい。このような現状を革新し、理学療法士がこの分野の医療サービスの向上に役割を果たせるようになるにはどうしたらよいか。それには理学療法士ひとりひとりが、臨床場において呼吸理学療法を実践することである。まずできることから実行し、少しずつ経験を積み重ねていくことである。その結果、上記のような誤解もしたいにやめていくに違いない。しかし、呼吸理学療法を実践するためには、何か手掛かりが必要である。

このような意図で企画されたのが本書である。本書の第1の特徴は、文字による抽象的な説明は最小限にとどめ、図表や写真で解説していることである。第2の特徴は、内科・外科・小児科など各分野の病態と呼吸理学療法の解説が対になっていることである。

本書は主に理学療法士が臨床場で利用することを想定して編集した。しかし医師、看護婦、言語治療士などや学生にとっても、呼吸理学療法の良き入門書であり、実践のためのハンドブックであると思える。(序より)

〈 内 容 目 次 〉

1 章 呼吸機能とその評価

芳賀敏彦

- I. 呼吸障害(呼吸不全)
- II. 呼吸不全の定義
- III. 呼吸不全の診断基準
- IV. 病態生理
- V. 息切れ(呼吸困難)
- VI. 呼吸不全, 呼吸困難を起す疾病

2 章 内科呼吸器疾患における呼吸理学療法

- 1) COPD, CRPD, その他の病態
町田和子

- I. 閉塞性肺疾患
- II. 拘束性肺疾患
- III. 肺血管系の疾患
- IV. 肺感染症, 化膿性疾患
- V. 塵肺
- VI. 悪性腫瘍

- 2) COPD, CRPD, その他の理学療法
溝呂木 忠

- I. 呼吸機能障害の評価
- II. 呼吸訓練
- III. 体位排痰法

3 章 外科手術前後における呼吸理学療法

- 1) 胸部, 腹部, その他の病態
宮本 晃

- I. 術後肺合併症の種類
- II. 発生機序
- III. 術前からの要因
- IV. 麻酔, 手術による影響
- V. 手術による特異性

- 2) 外科手術前後における理学療法
酒井桂太

I. 外科手術に対する呼吸理学療法

- 学療法目的
- II. 術前の評価
- III. 術前の呼吸理学療法
- IV. 術後の呼吸理学療法

4 章 小児疾患における呼吸理学療法

- 1) -1 気管支喘息の病態
馬場 実

- I. 気管支喘息の特性
- II. 気管支喘息の病態——病因との関連について
- III. 治療法のひとつとしての鍛錬療法とその位置づけ

- 1) -2 脳障害児の呼吸障害の病態
山形恵子・藤本輝世子

- I. 肺の仕事
- II. 他器官との関連
- III. 気管系の発生状況
- IV. 口腔, 鼻腔の発生状況
- V. 対策
- VI. 気道確保を阻害する誤飲の問題
- VII. まとめ

- 2) -1 小児疾患における理学療法
宮川哲夫

- I. 小児気管支喘息の呼吸理学療法(鍛錬療法)
- II. 脳性麻痺の呼吸理学療法
- III. 新生児・乳幼児の呼吸理学療法

- 2) -2 言語治療における呼吸・発声訓練
森永京子

- I. 呼吸と発声

- II. 呼吸・発声の発達の異常
- III. 言語治療における呼吸・発声訓練

5 章 ICUにおける呼吸理学療法

- 1) 呼吸不全の集中治療と呼吸理学療法
木村謙太郎

- I. 呼吸不全の病態の種々相
- II. 呼吸集中ケアの組み立て
- III. 呼吸集中治療と呼吸理学療法

- 2) ICUにおける理学療法
荻原新八郎

- I. 呼吸器障害を合併したジフテリアの症例紹介
- II. 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪
- III. 神経疾患
- IV. 未熟児, 新生児および乳児における無気胸

6 章 リハビリテーション

芳賀敏彦

- I. 慢性呼吸不全の特徴
- II. 患者の評価
- III. 患者教育
- IV. 呼吸理学療法
- V. 運動療法
- VI. 薬物療法
- VII. 酸素療法
- VIII. ベンチレータ
- IX. 栄養管理
- X. 作業療法
- XI. 医療管理
- XII. 社会福祉

運動療法による心臓リハビリテーションを基礎から臨床まで詳解!

CARDIAC REHABILITATION

Louis R. Amundsen 編

Churchill Livingstone 刊

心臓リハビリテーション

— 運動療法の基礎と臨床 —

吉松 俊一・小谷 雅宣 <監訳>
馬目太三・武田伸一・鎌田哲郎 <訳者>
四柳 関郎・中村 葉二 <協力>

本書は、学部在學生と訓練中の臨床家にとって、最適なレベルで、組織的に、系統だてて書かれたものである。総論的なことがらは、最初の3章に書かれている。理学療法士や健康を管理する職にあるものにとって、ここに示された基礎医学を理解することは容易であろう。また、多くの症例は実際に直面する臨床的適応性を持っている。この題材を理解することで、理学療法士はより柔軟性のある臨床家になるであろう。

つぎの3つの章は、臨床検査に関するものである。これは、比較的広範囲にわたり述べられている。したがって、すべての理学療法士が各段階の運動許容量テストの分析や実施をすることはないであろう。しかしながら、これらのテストとその結果の意味を理解することは、日常、運動許容量の評価と治療計画を立てるうえで、欠くことのできない部分である。

最後の3章は、患者の治療に関するものである。一般的なものと、特別なガイドラインが必要なもののため、プログラム作成にも、一般的原则と特別なプログラムの作成例が含まれている。

完璧に本書を読み通した者は、特殊な治療法についても、また、局所的なプログラムについて書かれたガイドラインにそった最新の研究報告に接しても、対応することができるであろう。(序より)

“機能回復体操”を写真によって図示し、折り込み付録として添付。

<内容目次>

1. 急速な身体運動に対する正常および異常な心血管反応
 - 休息状態 ● 急速な身体運動に対する心臓血管・肺の反応 ● 回復 ● 結論
2. 運動生理学
 - 力・仕事・仕事率 ● エネルギー代謝 ● 仕事の効率 ● 酸素摂取能力の診断 ● 身体活動によるエネルギー消費量
3. 持久性トレーニングの生理学的効果
 - 持久性トレーニングの定義 ● 正常人の持久性トレーニング効果 ● 冠動脈性心疾患における持久性トレーニングの効果 ● 結論
4. 運動前の病歴調査と体調の把握
 - 病歴調査 ● 理学療法用障害評価 ● 評価のまとめ
5. 心電図
 - 刺激伝導系 ● 標準心電図 ● 心電図の解釈 ● 結論
6. 連続的増加型運動負荷試験
 - 診断的方法としての運動負荷試験 ● 運動能力の評価における段階的運動負荷試験 ● 運

- 動検査室 ● 結論および要旨
 7. 心筋梗塞後の急性期と回復期におけるリハビリテーション
 - 心臓病患者のケアについての以前の概念 ● 長期臥床の悪影響 ● 最近の心臓病のリハビリテーションプログラム ● 結論
 8. 心筋梗塞後の回復期にある通院患者の心臓のリハビリテーション
 - 患者の選択 ● 運動処方箋 ● 患者の監視と予防手段 ● 患者の再評価 ● 記録の保存 ● 将来の展望
 9. 症例研究：心筋梗塞後のリハビリテーション——サンプルプログラム
 - 紹介と既往歴 ● 入院期 ● 入院中の心臓のリハビリテーションプログラム ● 外来での心臓リハビリテーションプログラム
- 付A. 入院患者用の心臓病リハビリテーションプログラム
- 付B. 通院患者用の心臓病リハビリテーションプログラム

B5変形判 総頁200ページ 写真・図・表70点

本体価格：6,000円

小児の骨折

国立小児病院整形外科医長 村上宝久
編集
国立小児病院整形外科医長 片田重彦

小児の骨折に関しては、従来より「骨折治療学」の一分野としてしか認識されていなかったようである。ところが、日常診療の場において小児の骨折に遭遇することは非常に多く、しかも、旺盛な成長途上にある骨・関節という特殊な基盤を持っているため、成人を主体とした「骨折治療学」では論じきれないものが余りにも多い。

また、治療の面の他に、診断に関しても成人とは異なる問題がある。成人では、骨折の診断は比較的容易であるが、小児では必ずしも容易ではない。すなわち、小児には小児特有の骨折型があり、さらに、骨端核や骨端線が存在など、診断を誤らせる要因が多い。したがって、診断にさいしては小児の骨格に関する基礎的な知識が不可欠である。

「小児の骨折」について、特殊な分野に関する業績は数多いが、これらを集積して成書にしたものはわが国においては非常に少ない。今回、各分野の第一線で活躍しておられる先生方にご執筆いただき、わが国で初めてと自負できる実用的な「小児の骨折」を編纂した。整形外科研修医をはじめ、第一線の臨床医の方々にも活用していただければ幸いです。
(序より)

◆ 内 容 目 次 ◆

<総論>

I 小児の骨の成長と骨端の構造

新名正由(防衛医科大学校整形外科)
桑原俊英(防衛医科大学校整形外科)

II 骨折の癒合、修復機序

矢部 裕(慶應義塾大学整形外科)
片田重彦(国立小児病院整形外科)

III 小児骨折の特徴

村上宝久(国立小児病院整形外科)

IV 小児骨折の診断

村上宝久(国立小児病院整形外科)

V 小児骨折の治療

片田重彦(国立小児病院整形外科)

VI 骨折の合併症および後遺症

松本 昇(国立小児病院整形外科)

<各論>

I 上肢

1 肩および上腕骨幹部

三笠元彦(都立大塚病院整形外科)
山中 芳(浜松赤十字病院整形外科)

2 肘関節部

伊藤恵康(慶應義塾大学整形外科)

3 前腕部

佐々木孝(済生会神奈川県病院整形外科)

4 手 部

内西兼一郎(慶應義塾大学整形外科)

II 下 肢

1 骨盤部

岩田清二(済生会神奈川県病院整形外科)

2 股関節部

石井良香(杏林大学整形外科)

3 大腿骨骨幹部

安藤謙一(保健衛生大学整形外科)

4 膝関節部

中川研二(保健衛生大学整形大学)

5 下腿骨および足関節部

坂巻豊教(慶應義塾大学整形外科)

6 足 部

加藤哲也(国立東京第二病院整形外科)

III 脊椎の骨折・脱臼、脊髄損傷

里見和彦(慶應義塾大学整形外科)

IV 特殊な骨折

沖水 明(都立清瀬小児病院整形外科)

B5判 総296頁 写真371点 図159点 表14点 本体価格：18,000円

実践臨床医学を旨とし、基本的・具体的内容で、最新の診断・治療から予防までを解説！

実践臨床内科シリーズ [B5判]

① 大腸癌と大腸疾患—その診断・治療の実際

総108頁 図表写真65点

本体価格：2,913円

② 動脈硬化—最新の情報

総164頁 図表写真100点

本体価格：3,495円

③ 最新の慢性関節リウマチ診療

総154頁 図表写真80点

本体価格：3,301円

④ 腓疾患への臨床的挑戦

総154頁 図表写真106点

本体価格：3,301円

⑤ 貧血／話題の疾患

総186頁 図表写真123点

本体価格：3,495円

⑥ ベッドサイドの水電解質管理と腎不全の臨床

総170頁 図表写真114点

本体価格：3,495円

⑦ 狭心症と気管支喘息—診断と治療の最前線

総176頁 図表写真112点

本体価格3,883円（税別）

⑧ 内科医のための皮膚科学

総116頁 図表写真94点

本体価格6,311円（税別）

ご注文について

- 取扱店一覧をご参照のうえ、お近くの書店でお求めください。
お近くに取扱店がない場合や店頭在庫がない場合は取り寄せも可能です。
- 小社へ直接ご注文頂く場合は下記の方法があります。
 1. ファクシミリ 03-3811-0637
 2. 小社ウェブサイト <http://www.medical-aoi.co.jp>
- 小社へ直接ご注文頂いた場合は配送手数料が一律500円（税込）かかりますが、お買上合計金額が10,500円（税込）以上は無料です。
- 海外への発送については、ご注文の際にお問い合わせ下さい。

2007年4月発行

株式会社 **メディカル薬出版**

東京都文京区本郷2-39-5 片岡ビル5F 〒113-0033

TEL (03) 3811-0544 (代)

FAX (03) 3811-0637

郵便振替 00100-5-69315

銀行口座 みずほ銀行 本郷支店 <普通> 1122411

株式
会社

メディカル葵出版

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-39-5 片岡ビル 5F

電話 (03) 3811-0544

<http://www.medical-aoi.co.jp>

取扱書店